

XII 地域連携

本章は「平成 28 年度 全学教職センター・教育実践総合センター活動報告書」を引用した。

はじめに

全学教職センター長・教育実践総合センター長
小川 哲 哉

2016 年度は、茨城大学の教員養成教育にとって注目すべき年であったと思います。まず 4 月には大学院の教育学研究科に「教育実践高度化専攻（教職大学院）」が開設され、質の高い教員養成が始まりました。同専攻では現職教員とストレートマスターが、担当教員と共にレベルの高い教育実践研究に取り組み、附属学校園、地域の協力連携学校、さらには教育委員会との密接な関係を深めながら、様々な新しい試みにトライしてきました。さらに全学の教職課程教育の支援を担う「全学教職センター」が設置されたことにより、総合大学の強みを生かしたこれまでにない新しい教員養成教育が始まりました。こうした多様な取り組みによって、本学の教員養成はより高度なレベルに入ったと言えるでしょう。

さて来年度 4 月からは全学教職センターが全面稼働することになります。それに伴い、長い歴史を持つ教育学部附属教育実践総合センター（以下、実践センター）は廃止されることになりました。実践センターは、1978 年に設置された「教育工学センター」を母体として、その後 1991 年には「教育実践研究指導センター」に改組され、2000 年に「教育実践総合センター」となって今日に至っております。その間には教育学部における教育研究の理論と実践を往還する役割を果たし、特に附属学校園と連携して行ってきた実践的教育活動は本学部にとって極めて重要なものであります。

本年度はそうした大きな変革期の節目に当たっていたため、全学教職センターは、実践センターと密接な連携を保ちながら、これまでに培われたノウハウを生かしてより実践的な活動を展開してきました。例えば、教育実習や介護等体験に対する事前・事中・事後の教育支援活動、全学部の教職課程学生のキャリア教育の充実、教員免許更新講習会等の実施等きめ細やかな教員養成教育を行ってきました。また学生ボランティア活動では、数多くの学生を様々な活動に参画させました。特に水戸市教育委員会との連携事業では、多数の学生が小中学校において貴重な教育実践経験を得ております。さらに教育学部教員による地域の教育活動や連携協力活動、そして附属学校園との共同研究も充実したものであります。

さて、来年度からは全学教職センターが、茨城大学全体の教員養成教育を担うことになります。全学教職センターでは、実践センターのように教育学部を中心とした活動ではなく、全学規模での養成教育の充実が大きな課題となります。その最初の試み

として 1 月 18 日には茨城大学教員養成 F D 「今後の教員養成の動向について」を、全学教職センターと教育学部の共催の形で行いました。現在、国の文教政策においては、教員免許法の改正をきっかけとして、これまでにない新しい教員養成教育の方針が矢継ぎ早に出されています。こうした新しい教員養成教育の動向にも注意を向けながら、全学教職センターは、これまで実践センターで培われてきた実践的蓄積を財産として、それを継承・発展させていく必要があると思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

1 教員養成支援部門

1-1 今年度の部門における活動概要

教員養成支援部門では、「教育実習の支援」、「模擬授業室の運用を通じた教員養成教育の支援」を柱として活動に取り組んでいます。まずはそれぞれの概要を報告します。

教育学部における教育実習は、1年次から4年次までの各年次を通じた積み上げ型のカリキュラムとなっています。1年次・2年次はいわゆる「事前指導」としての講義や学校参観を中心とした内容で構成しています。3年次・4年次では学校現場における本格的な実習を行います。これらは、教育学部の委員会組織の一つである「教育実習委員会」が中心となって企画・運営されています。同委員会は学部内の各教室から選出された1名ずつの教員と、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校、附属幼稚園から選出された1名ずつの委員（実習主任）、4附属の校園長が主なメンバーとなりますが、センター専任教員も委員として所属しており、主に1年次・2年次における授業（実習）の企画・運営・実施と、3年次・4年次の実習に対する事前事後指導の企画・運営、実習校との連絡調整などを担当しています。

理学部、人文学部、農学部では、教員免許取得希望者が4年次で母校での教育実習を行います。次年度より、1年次でのガイダンス、3年次での事前指導、教育実習終了後の事後指導をセンター教員が担当します。本年度は、年度末に2年次学生を対象とした予備ガイダンスを行いました。

また、小学校・中学校の教員免許取得にあたっては、「介護等体験」が必修となります。これまでは、各学部の担当教員によって組織された「介護等体験運営委員会」がその運営業務にあたってきました。本年度よりセンター内に「介護等体験専門委員会」を置き、これまで同様に各学部の担当教員に加えてセンター専任教員が所属し委員長を務め、運営業務にあたることとなりました。

「模擬授業室」の運用を通じた教員養成教育の支援については、学校における授業を模擬的に実践することを主な目的とし、小学校・中学校の一般教室の構造をイメージ・再現した従来の模擬授業室（A224）に加え、20名以内の少人数授業や、ICT機器を用いたデジタル中心の授業スタイルへの対応を意識した模擬授業室（A223）を設置しました。これら二つの模擬授業室が、教育法などの授業において模擬授業形式の演習などに利用されています。また、授業時以外にも随時開放していますので、教育実習の準備・練習、教員採用試験に対する準備等に取り組む学生の姿も見られます。

以上、当部門における主な取り組みの概要を述べました。

次頁より、上記の二つの柱、本年度の教育実習の実施状況およびそれらに対する支援の内容、模擬授業室の状況と本年度における活用状況などを具体的に報告します。

（文責：昌子佳広）

1-2 平成 28 年度教育実習の実施状況

(1) 教育実習カリキュラムの概要 教育学部における教育実習カリキュラムは以下の通りとなっている。

| 履修年次 | 実習科目名 | 対象課程・コース，必修／選択の別 |
|------|---|---|
| 1 年次 | 教育実地研究入門Ⅰ * | 全課程共通，選択科目 |
| 2 年次 | 教育実地研究入門Ⅱ * 養護教育実地研究入門 養護実践研究Ⅰ | 全課程共通，必修科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目 |
| 3 年次 | 初等／中等教育実地研究Ⅰ * 幼児教育実地研究Ⅰ * 養護教育実地研究Ⅰ・Ⅱ 養護実践研究Ⅱ | 学校教育教員養成課程，必修科目 全課程共通，選択科目 養護教諭養成課程，必修科目 養護教諭養成課程，選択科目 |
| 4 年次 | 初等／中等教育実地研究Ⅱ * 中等教育実地研究Ⅲ (*) 中等教育実地研究Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ * 幼児教育実地研究Ⅱ (*) 特別支援教育実地研究 特別支援教育実地研究 養護教育実地研究Ⅲ 養護実践研究Ⅲ | 学校教育教員養成課程，必修科目 学校教育教員養成課程，選択科目 養護教諭養成課程・情報文化課程 ・人間環境教育課程課程，選択科目 全課程共通，選択科目 特別支援教育コース，必修科目 全課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目 養護教諭養成課程，選択科目 |

また、理学部・人文学部・農学部では、4年次に、高等学校で行う3単位の教育実習（事前事後指導を含む）、中学校で行う5単位あるいは3単位の教育実習（事前事後指導を含む）を設定している。

このうち、1年次対象選択科目「教育実地研究入門Ⅰ」、2年次対象必修科目「教育実地研究入門Ⅰ」については、センター専任教員が中心となって企画および実施・運営にあたった。3年次および4年次の各科目（実習）については、それぞれの実習運営を統括する教育実習委員会内の各小委員会と連携しながら事前事後指導を企画・立案し、関係者との連絡・調整等にあたった。これらセンター教員が企画・運営・指導等にかかわった実習（上記表中*を中心とす

る)について、次項よりそれぞれの概要と実施状況を報告する。

(2) 本年度における教育実習支援活動の実施状況

- ① 教育実地研究入門Ⅰ 学部における教育実習全体の導入として位置づけられる授業(実習)である。ねらいを、

○教師のもつ使命感や教育的愛情について理解することができる。
○児童生徒の個別的な違いや発達段階ごとの特徴などを把握することができる。
○授業やその他の教育活動における教師のはたらきかけのあり方について考えを深めることができる。

の3点に設定し、附属小学校および附属中学校における学校(授業)参観を中心的な活動として行った。

4月当初に教育実習カリキュラム全体のガイダンスを行うとともに、本授業の概要(ねらい、内容、日程)を説明し、履修登録を受け付けた。

授業は集中方式で7月下旬にまず2回実施し、夏休み期間中を利用して、自分の母校(小学校あるいは中学校)を訪問し、施設等を見学させていただくことと、恩師(お世話になった先生)に面会しインタビューをさせていただくという、2つの課題を提示した。これは、学校という場所(空間)、施設・設備などを再認識(確認)するとともに、小学生・中学生だった自分自身の姿、当時の思い、…などを想起し、学校教育と自分自身との関わりについて考えること、また、先生という仕事に携わる人の思い・考えなどを知り、教師のもつ使命感や職業意識などについて考えを深めることをねらいとして、今年度より新たに設定したものである。学生は夏休み期間の各自の帰省等の予定にあわせ、各個人で母校および恩師に連絡をとり、依頼をして、見学及びインタビューを実施し、その内容をレポートにまとめて提出した。

9月には、各選修・コース・課程ごとに設定した期日に、附属小学校および附属中学校を訪問し、授業(先輩である教育実習生の授業を含む)参観や児童・生徒の観察を行い、参観・観察の内容に基づく討議を行った。日程や内容については、附属小中学校と連絡をとりながら企画を進め、学生向けの参観てびきや記録用のワークシートなどを作成し、実際の指導は、各選修等ごとに、各教室から選出された教員が行った。

そして、11月、12月には、3年次および4年次の教育実習事後指導に参加させ、先輩の教育実習に関わる報告を聞くことにより、来るべき自分自身の教育実習に対する意欲喚起と課題把握に繋がるようにした。

- ② 教育実地研究入門Ⅱ 3年次以降における本格的な教育実習の事前指導と位置づけられる授業(実習)である。

ねらいを、

- 学校における施設・設備の状況や、児童生徒の実態等をふまえた学校経営のあり方などについて実情を理解できる。
- 教師という仕事のあり方、教師の使命感や教育的愛情などについて理解できる。
- 授業参観や教育諸活動への参加を通して児童生徒とふれ合い、関わり方の基本を身につける。
- マナーや身だしなみなど教師・大人として必要な社会性を培う。

の4点に設定し、教師のあり方や学校における仕事など、教職についての基本的な理解を得るための講義と、水戸市内の公立小中学校の教育活動参観・体験によって構成した。講義を通して、児童生徒の見方、授業の進め方、校務のあり方などについて理解し、学校現場における実地体験を通し、教職および学校教育への意識を高めていくようにした。

学校現場での実地体験は、水曜日の午後を使って年間4回実施した。今年度も水戸市内の全ての小中学校に協力を依頼し、ほぼ全校の承諾を得た。

授業前回を通じて、2回（2週）の講義を行い、その次の回に学校を訪問するという活動（実習）を1セットとして、これを前期（6月・7月）に2セット、後期（10月・11月）に2セット行うという形をとった。これによって、講義を通して学んだ内容を基に、学校訪問における参観・体験の観点を明確にすることができた。ただし、学校における参観・体験の具体的な内容は各学校の計画にある程度任せなければならないので、講義との関わりが十分に確保されていたかどうかには課題は残る。一方、訪問の翌週の授業では、参観した事実をもとに小グループで話し合い、ふりかえりを行う演習形式の時間をとることによって、学校における実地体験から得られた学びを、受講者間で共有し合うことができた。

授業の計画及び運営、また訪問学校との連絡・調整はセンター専任教員が行い、学校訪問の際は各教室から選出された教員が引率・指導を行った。学校参観を通してまとめるレポートと、講義内容に対する総括レポートによって成績を評価した。

- ③ 3年次・4年次における教育実習 3年次・4年次では、課程・コースごとに必修あるいは選択として、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の各校種における教育実習を行うが、これらに対するセンター専任教員の関わり方としては以下の諸点がある。

- ・事前事後指導の企画・運営、連絡・調整
- ・「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」への出席
- ・教育実習期間における諸相談（模擬授業室の開放・提供を含む）
- ・授業記録VTR撮影のコーディネートと整理・保管

事前事後指導については、教育実習委員会内の実習種別（基本実習、協力校実習、帰省実習、養護実習）ごとの各小委員会と連携しながら内容を検討し、必要に応じて外部機関との

連絡・調整を図って実施した。事後指導は、全体での指導（講話等）を行った後、選修・コース等の単位に分散して学習会（報告，討議）を行うという流れとしている。分散会（学習会）での内容の大枠は共通に決め、詳細は各選修等ごとの指導を担当する教員と学生との合議によって内容が検討され実施された。また、前述の通り 1 年次の「教育実地研究入門Ⅰ」の授業の一部を兼ねており、1 年次生に対する報告、1 年次生からの質疑と応答といった内容も、各選修等ごとの企画の中に含まれている。

大学院教育学研究科所属学生の「免許取得プログラム」による教育実習（帰省実習）対象学生（院生）を集めての学習会はセンターで担当した。

また、各実習種別ごとの事後指導レポートは選修等ごとの担当者が目を通した後にセンターに送られ、書かれた内容、特に「実習中に抱えた悩み」「実習中に起きたトラブル」「大学および実習校の指導体制等に関する要望・意見」などを整理して記録に残している。

④ 「教育実習運営連絡打合せ会」・「教育実習運営協議会」

「教育実習連絡打合せ会」および「教育実習運営協議会」は、教育実習を行う附属学校園、県内公立小中学校の先生方（校長先生や、実習主任の先生）に出席していただき、大学側からの依頼・説明や、実習運営および実施に関する協議・反省等を行う場として、実習が始まる以前の 5 月（連絡打合せ会）と、終了後の 12 月（運営協議会）に開催しているものである。大学側は学部長をはじめ実習にかかわる各セクションの関係教員が出席し、また他学部の教育実習担当教員も出席する。茨城県教育委員会にもオブザーバーとしての出席を依頼し、陪席をいただいている。

本年度は、附属学校園を含めて 80 校（小学校 28 校、中学校 52 校）で教育実習が行われた。全課程において行われる選択の帰省（母校）実習はこの数に含まれていないので、それを含めるとおよそ 130 校にご協力をいただいたこととなる。

センター教員はこの 2 回の会議に出席し、特に 5 月開催の会議において実習における指導内容や評価基準などについての説明を担当した。

⑤ その他

教育実習期間（直前時期を含む）においては、学生が実習において担当する教科指導（授業）の構想（教材研究，授業計画）を中心に、実習全般にわたる諸相談への対応を行った。また、実習期間中にも「模擬授業室」を開放し、授業実習の準備・練習、教材・資料等の作成などに取り組めるようにした。

また、理学部・人文学部・農学部においては、次年度よりこれまで教育学部を対象として行ってきた上記の支援を同様に行うよう準備を進めているところである。具体的には、次年度より、新入生（平成 29 年度より人文学部は人文社会学部となる）を対象とした教職課程全般に関するガイダンス、2 年次を対象とした介護等体験オリエンテーション、教育実習の予備ガイダンス、3 年次では年間を通じた教育実習事前指導、4 年次での直前指導、教育実習終了後の事後指導を行っていく予定である。

1-3 模擬授業室の活用状況

平成 28 年度 模擬授業室使用状況（申し込みのあったもの） 数字は件数

【A 2 2 4】

| 月 | 使用者（代表） | | その他 | その他の内容 | 合計 |
|----|---------|-----|-----|----------------|-----|
| | 教員 | 学生 | | | |
| 4 | 37 | 10 | 2 | 協力教員会，発明クラブ説明会 | 49 |
| 5 | 25 | 24 | 3 | 運営委員会，企画会議など | 52 |
| 6 | 48 | 43 | 6 | 教員免許状更新講習 | 97 |
| 7 | 45 | 31 | 3 | 附属学校打合せ会など | 79 |
| 8 | 23 | 74 | 6 | 教員免許状更新講習 | 103 |
| 9 | 9 | 78 | 0 | | 87 |
| 10 | 21 | 6 | 6 | 茨城県教育研究連盟 | 33 |
| 11 | 19 | 35 | 12 | | 66 |
| 12 | 31 | 32 | 3 | | 66 |
| 1 | 27 | 31 | 0 | | 58 |
| 2 | 14 | 16 | 9 | 水戸市との連携事業 | 39 |
| 3 | 14 | 5 | 0 | | 19 |
| 計 | 313 | 385 | 50 | | 748 |

【A 2 2 3】

| 月 | 使用者（代表） | | その他 | その他の内容 | 合計 |
|----|---------|----|-----|--------------|-----|
| | 教員 | 学生 | | | |
| 4 | 1 | 1 | 0 | | 2 |
| 5 | 8 | 0 | 0 | | 8 |
| 6 | 34 | 8 | 0 | | 42 |
| 7 | 24 | 5 | 25 | 就職相談（面接試験対策） | 54 |
| 8 | 30 | 4 | 25 | 就職相談（面接試験対策） | 59 |
| 9 | 3 | 0 | 0 | | 3 |
| 10 | 4 | 0 | 6 | 茨城県教育研究連盟 | 10 |
| 11 | 8 | 1 | 0 | | 9 |
| 12 | 14 | 1 | 1 | 教育実習事後指導 | 16 |
| 1 | 10 | 0 | 0 | | 10 |
| 2 | 2 | 2 | 9 | 水戸市との連携事業 | 13 |
| 3 | 2 | 0 | 0 | | 2 |
| 計 | 140 | 22 | 66 | | 228 |

まず、A224において、全体の合計使用件数は昨年度より219件増加した。(前年度は529件。)合計件数としては、一昨年度に比べてほぼ倍となった。使用者別には、教員による授業やゼミナールによる使用は大きくは異なっていないが、学生による自主使用件数がほぼ倍に増加している。模擬授業室を設置して以来、学部の各教員が担当する授業(教科教育法など)で、模擬授業形式の演習などを取り入れることが増え、単なる講義ばかりでなく、実践的な指導、アクティブラーニングを重視する傾向にあるが、そうした効果は学生の自主的な学びの姿にも繋がっているようだ。

A223は今年度より稼働を開始した。前年度までは、学生用の自習室として、ノートパソコンを自由に使用することができる部屋として開放していた。前年度末に模擬授業室への模様替えを行うに際して、従来の自習室としての機能を残す必要もあったため、ノートパソコン5台を常設したままにしている。パソコンについては今年度末には撤去し、模擬授業室としての機能に特化していく予定であるが、A224が40名規模の(小中学校における)大人数授業、またどちらかと言えば旧来型のアナログ中心の授業スタイルに対応するものであり、それに対してA223は20名以内の少人数で、ICT機器を用いたデジタル中心の授業スタイルへの対応を意識したものであることから、既に設置しているタブレット端末(iPad)や電子黒板におけるソフトウェア、アプリケーション、コンテンツ等の一層の充実が必要である。そうした環境を整えることができれば、さらに教職課程、教員養成教育のさらなる充実に向けての貢献を果たすことができるであろう。

1-4 教採講座から感じること

教育実践総合センター客員教授 東小川 昌夫

前年度の就職・進路相談室相談員という立場に加えて、平成 28 年度は、新たに教採講座や集中講義の講師として学生に関わるようになりました。学生との個別の相談ではわからなかった点や 1 年間の講座を改めて振り返って感じることをまとめてみました。

○ 過去の私との比較

年齢を重ねると、自分がその年代だった頃の様子とどうしても比較してしまうものです。簡単に言うと「昔はそんなことはなかった。それに引き替え今の学生は……。」という決まり文句のようなものが口をついて出てしまいます。おそらく私が学生の時にも、先輩の方々から同じように言われ続けた台詞のように思います。いつの時代も、その言葉の繰り返しであると言ってしまえばそれだけのことなのですが、自分の過ごした過去は、輝いた部分だけがいつまでも心に残るといことなのでしょう。

そのようなことを考慮した上で、現在の教育学部 3・4 年生を見てみると、「まじめである」という単純なことにたどり着きます。これは学生に関わる多くの先生方からも異口同音に聞かれる言葉ですので、感じていることは同じなのかなと思います。この「まじめである」ということは、大変すばらしい学生の資質であり、あるべき姿としては申し分ありません。しかし、「まじめである」が故に、「考え方の堅苦しさ」「視野の狭いものの見方」に終始してしまわないか懸念しています。学校に初めて勤務した新規採用教員の中に、「全て自分が納得いくように仕事を完遂させたい」という思いが強い教師に出会うことがあります。睡眠時間を削り、休日も出勤して仕事をこなさないと納得しない新規採用教員は、仕事をこなせばこなすほど「まだ不足しているのではないかと不安に出会うようです。

これからの前期（4 月～）の講座では、教師としての仕事を理解した上で、「自分に合った適切な心構え」の身につけ方について触れていきたいと思っています。

○ 教師の卵の不安

学生の心の中にある不安は「私は、果たして先生としてやっていけるだろうか。適性があるのだろうか」という点につきます。

これから世の中に出て社会貢献を目指す学生にとって、どのような職業を選択したにしても、当然と言えば当然の不安です。教師免許取得を予定し、教師という職業を選択する段階では「できるのだろうか」という、目に見えないものへの不安でもあります。

後期（10 月～）3 年生を対象とした教材講座を進める中で、詳しい教師の仕事や取り組みの心構え、やりがいなどを聞いたり、自分の想いを文章にまとめたりすると、これまでの不安がより具体的な形で見えるようになってきます。それは、「やっていけるか」という不安の中身が見えてくるためでしょう。そもそも、教員採用試験に合格できるかという大不安と同じくらいに、「児童生徒を指導しきれぬのか」「保護者のクレーム等にどう対応したらよいのか」という具体的な不安が変わっていきます。

講座では、「始めから、そんなにうまくいくはずがない」ということを強調しています。

「20 年経験した教師であっても、指導の難しい児童生徒に初めて出会うこともある。全てに自信を持って仕事をするには教師を 50 年続けたってできやしない。目の前にいる児童生徒・保護者に、誠実・意図的に接してみて初めて身につくことばかりである。」と話し続けています。

2 地域教育支援部門

2-1 教育支援ボランティア活動報告

教育実践総合センターでは地域の教育支援ボランティア事業を行っています。水戸市学校支援活動は、教育学部と水戸市教育委員会との協定にもとづき、平成 16 年度から始まりまし。その後、地域からの要望に応じて教育支援を行う県内教育支援ボランティア活動も加わり、昨年度からは高校での教育支援を行う高校ボランティア事業も始まりました。これで高校教員を目指す人文学部・理学部の学生にも、ボランティア活動の機会が与えられました。

平成 29 年度から、教育実践総合センターが廃止され、全学教職センターが本格的に稼働します。来年度から学生は学部に関係なく、すべてのボランティア募集に参加できるようになります。

下表は、今年度の教育支援ボランティア活動状況です。水戸市学校支援活動の依頼件数は 118 件、派遣件数は 48 件、活動延べ人数は 101 人です。募集時期について、昨年度までは前期・後期の 2 回の募集でしたが、今年度は水戸市教育委員会が学校の状況に合わせて 3 回募集しました。前期募集は 5 月から年間を通しての活動について、9 月募集は 2 学期以降の活動を中心に、1 月募集は 3 学期の活動が中心になります。学校現場のニーズに合わせて学生は自分の予定を確認してから申し込むことができ、参加しやすい情報提供となりました。

茨城県内教育支援ボランティアは、県内の教育関連機関から随時募集を受付けています。募集依頼件数は 120 件、派遣件数は 87 件、活動延べ人数は 511 人でした。

高校ボランティアは 2 年目に入り、募集依頼が 24 件、派遣件数は 11 件、活動延べ人数 22 人でした。これらのボランティアをあわせると今年度は 634 人の学生が活動に参加しました。

平成 28 年度 教育支援ボランティア活動状況

| 区 分 | 支援依頼数 | 派遣件数 | 活動延べ人数 |
|----------------|-------|------|--------|
| 水戸市学校支援活動 | 118 | 48 | 101 |
| 茨城県内教育支援ボランティア | 120 | 87 | 511 |
| 高校ボランティア活動 | 24 | 11 | 22 |
| 合 計 | 262 | 146 | 634 |

水戸市学校支援活動

【事業担当】

| | |
|------------|--------------------------|
| 水戸市総合教育研究所 | 小川 佐栄子、鈴木 陽子、廣瀬 文恵 |
| 全学教職センター | 柴原 宏一、鯉渕 良子 |
| 教育実践総合センター | 五島 浩一、東小川 昌夫、小川 美穂、叶谷 円美 |

平成 28 年度 県内教育支援ボランティア派遣状況

| 派遣先 | 依頼件数 | 派遣件数 | 派遣人数 | 派遣内容 |
|--------------------------------------|------|------|------|--|
| 学校関係 (幼稚園・小学校・ 中学校・特別支援 学校) | 75 | 56 | 346 | 学習支援、行事支援（運動会・宿 泊学習・遠足）等 |
| 教育委員会関係 | 17 | 12 | 59 | 学びの広場サポーター、理科観察 実験アシスタント、陸上記録会補 助等 |
| 社会教育関係 | 14 | 11 | 66 | 茨城県警大学生サポーター、水戸 市協働事業補助、児童センター補 助等 |
| 社会福祉関係 | 10 | 7 | 30 | 子ども学習支援事業、社会福祉協 議会 学習支援等 |
| その他 | 4 | 1 | 10 | 少年少女合唱団サポート |
| 計 | 120 | 87 | 511 | |

県内教育支援ボランティア・高校ボランティア

【事業担当】

全学教職センター 柴原 宏一、鯉淵 良子
教育実践総合センター 五島 浩一、東小川 昌夫、小川 美穂、叶谷 円美

【ボランティアガイダンス】

5月18日（水）、教育学部D棟101教室において、平成28年度ボランティア活動ガイダンスを実施しました。100名を超える学生が参加しました。

まず、小川哲哉実践センター長からボランティア活動の意義について、続いてボランティア活動への参加の仕方や注意事項、高等学校でのボランティア活動、事務上の手続きについて説明がありました。

次に、昨年度ボランティア活動に参加した教育学部の学生・院生からボランティア体験発表がありました。水戸市内の中学校で英語の授業の学習支援に参加した学生からは、ボランティア活動を通して社会人になるために必要な人とかかわる体験ができたという話がありました。学校行事の補助、学習支援、読み聞かせなど様々なボランティア活動に取り組んだ学生は、たくさんの人と出会うことができ自分の世界が広がったと話していました。中学校で学習支援に継続的に取り組んでいる院生からは、活動を通して自分に足りないことや身に付けていきたいことなどの課題を見つけることができたとの発表がありました。ガイダンスに参加した学生たちは、真剣な表情で発表に耳を傾けていました。

最後に、実践センター客員教授の東小川昌夫先生から、教師としての実践的な力を付けるために教育現場での体験活動が重要であることや、ボランティア活動によって学校の教育活動も助けられていることなどについての話がありました。

【高等学校での教育支援ボランティア】

センターではこれまでも、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会等との協定により、一部の県立高等学校や水戸市内及び近隣の小・中学校等で、学習支援やスタディーエイド等のボランティア活動に取り組んでまいりました。

しかし、今までは、ボランティア活動の場の大部分が小・中学校であったため、高校教員を目指す学生から多様な高等学校を知るためにも高等学校でボランティア体験をしたいとの要望があることや、本センターとしても高校教員を目指す一般学部(人文学部、理学部等)生が高等学校での教育支援ボランティア活動をとおして教職に対する理解を深め、教職を志願する学生が増えてほしいとの思いから、学生が高等学校で教育支援ボランティア活動を行う機会を増やしたいと考えました。そこで、昨年度から、茨城県高等学校長協会総会で本学学生に教育支援ボランティア活動の場を提供してくださるようお願いし、今年度は、次の学校から協力の申し出をいただきました。

| 番号 | 学校名 | 支援活動の概要 |
|----|----------|--|
| 1 | 小瀬高等学校 | ・模擬選挙での指導補助 |
| 2 | 緑岡高等学校 | ・学校設定科目「SSH 課題研究」の指導補助 |
| 3 | 勝田高等学校 | ・長期休業中・土曜課外の指導補助 ・部活動の指導補助 |
| 4 | 東海高等学校 | ・数学の指導補助 ・部活動の指導補助 |
| 5 | 那珂高等学校 | ・大学模擬授業の指導補助 ・クラスマッチの指導補助 ・海外交流の指導補助 ・部活動の指導補助 |
| 6 | 鉾田第一高等学校 | ・放課後の学習支援 ・部活動の指導補助 |
| 7 | 鉾田農業高等学校 | ・文化祭での指導補助 |
| 8 | 石岡第二高等学校 | ・土曜課外の指導補助 |
| 9 | 明野高等学校 | ・学習支援 ・部活動の指導補助 |
| 10 | 結城第二高等学校 | ・「心理学演習」の学習支援サポーター |
| 11 | 古河中等教育学校 | ・Σリサーチ(探求活動)の指導補助 |
| 12 | 常磐大学高等学校 | ・放課後の学習サポート ・英会話の指導補助 ・部活動の指導補助 ・英語ディベート指導補助 ・外国人への日本語指導の補助 ・学校ボランティア |

活動に参加した学生 22 名の内訳は、人文学部 3 名、教育学部 12 名、理学部・理工学研究科 7 名であることから、目的とした「高校での一般学部(人文学部、理学部等)生のボランティア活動参加」は、ある程度達成できたものと考えています。

| 学校名 | 支援活動の内容 | 参加学生・院生の所属 |
|------|------------------|---|
| 緑岡 | ・「SSH 課題研究」の指導補助 | 教育学部 人間環境教育課程 理学部 物理コース 理学部 化学コース 理工学研究科 |
| 勝田 | ・課外の指導補助 | 教育学部 学校教育教員養成課程(2) 理学部 学際理学コース |
| | ・部活動の指導補助 | 人文学部 社会科学科 教育学部 学校教育教員養成課程(2) 理学部 生物学コース(2) |
| 那珂 | ・クラスマッチの指導補助 | 教育学部 学校教育教員養成課程(2) |
| | ・部活動の指導補助 | 人文学部 人文コミュニケーション学 科 |
| 鉾田第一 | ・放課後の学習支援 | 理学部 学際理学コース |
| | ・部活動の指導補助 | 人文学部 社会科学科 教育学部 人間環境教育課程 |
| 石岡第二 | ・土曜課外の指導補助 | 教育学部 学校教育教員養成課程 |
| 常磐大高 | ・放課後の学習サポート | 教育学部 学校教育教員養成課程 |
| | ・部活動の指導補助 | 教育学部 学校教育教員養成課程 |
| | ・学校ボランティア | 教育学部 養護教諭養成課程 |

高等学校でのボランティアはまだ 2 年目ですが、参加した学生からは、「生徒が意欲的に研究に取り組み、自らの力で研究結果をまとめて発表する姿に感心した。生徒の好奇心に柔軟に対応していけるよう、私自身も大学の勉強に今まで以上に取り組もうと思い、良い刺激になった。」、「生徒がどういった考えを持っているのか少しわかった。」、「実際に経験することでモチベーションがあがった。」、「自分が高校生のとくとはまた違う目線で高校生の活動を見たり体験することができた。」、「ボランティアのときに高校生に教えたりコミュニケーションをとったりと、普段友達と交わしているものとは異なったことを経験することが出来たのでとても大切な経験だと思った。」などの意見が寄せられ、ボランティアをとおして成長する学生の姿を見ることができました。また、「教採講座や相談室でいろいろな実践経験を聞いて知識ばかり持っていたが、今回のボランティアで、今までよりも教職に対する関心や意欲が増した。参加して本当によかった。」と述べる学生もおり、「ボランティア(実践)をとおして教職に対する理解を深める」という当初の目的についても、大きな効果があったと考えています。

平成 29 年度は業務が全学教職センターに引き継がれますが、教育学部以外の学生も多く参加するよう周知法を含めて工夫し、茨城県教育委員会や茨城県高等学校長協会と連携を図りながら、高等学校での教育支援ボランティア活動の拡大を図ってまいります。

水戸市学校支援活動 募集一覧

1.前期募集 <小学校>

| 支援活動No. | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | 備考 |
|---------|--------|-----------|--|----|----|------------------|--|---|
| E1 | 三の丸小学校 | 飯塚宏昭 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 2 | 1 | 8:00~15:30 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助, 進行係の補助) | ・教育学部養護教諭養成課程 4年次の学生を希望 ・女性希望 ・動きやすい服装で参加 |
| E2 | 三の丸小学校 | 飯塚宏昭 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 3 | 1 | 8:00~15:30 | 学校行事の補助(運動会の準備係の補助, 進行係の補助) | ・男性希望 ・動きやすい服装で参加 |
| E3 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 5 月 27 日(金) | 10 | 1 | 13:30~17:00 | 学校行事の補助(運動会の前日準備) ・ライン引き ・テント設営 | ・雨天の場合は変更になることがある |
| E4 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 10 | 1 | 8:00~16:00 | 学校行事の補助(運動会) ・各係の手伝い ・準備及び片付け ・児童看護補助 | |
| E5 | 上大野小学校 | 高村ひろみ教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 3 | 1 | 8:00~15:00 | 学校行事の補助(運動会の準備係の補助) | |
| E6 | 見川小学校 | 遠藤愛美 養護教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 2 | 1 | 7:30~16:00 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助等) | |
| E7 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 5 月 21 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 22 日(日), 28 日(土) | 1 | 1 | 7:30~16:00 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助等) | |
| E8 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 28 年 5 月 10 日(火), 11 (水), 12 (木), 13(金), 16(月), 17(火), 18 | 2 | 9 | 9:00~15:00 | 授業における学習支援(運動会の練習) | |
| E9 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 28 年 5 月 21 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 22 日(日) | 4 | 1 | 8:00~16:00 | 学校行事の補助(運動会の競技補助) | |
| E10 | 赤塚小学校 | 佐藤光央 教諭 | 平成 28 年 5 月 21 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 22 日(日), 28 日(土) | 4 | 1 | 9:00~15:00 | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助等) ・用具運び及び片付け ・審判補助 ・ライン引き ・児童看護補助 等 | ・茨城大学教育学部数学科の学生に打診中 |
| E11 | 吉沢小学校 | 戸田康昭 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 4 | 1 | 1 日間 (時間は要相談) | 学校行事の補助(運動会の係活動補助) | |
| E12 | 堀原小学校 | 齋田由加理 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) ※ 予備日は平成 28 年 5 月 29 日(日) | 10 | 1 | 1 日間 (時間は要相談) | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助) | |
| E13 | 内原小学校 | 安村英樹 教諭 | 平成 28 年 5 月 28 日(土) | 3 | 1 | 8:00~15:30 | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助) | |
| E14 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 6 月下旬~7 月上旬 | 2 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(第 1 学年 体育:跳び箱運動) | |
| E15 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 7 月 25 日(月)~7 月 29 日(金) | 5 | 5 | 8:30~12:00 | 授業における学習支援(夏休みの水泳指導補助) ・25mを泳げない児童(高学年児童)を対象にした水泳学習 | |
| E16 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 9 月 16 日(金) | 3 | 1 | 8:30~15:00 | 校外学習の引率補助(第 1 学年 遠足:大洗アクアワールド) ・グループ活動時の児童への支援 | ・昼食代は実費 |
| E17 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 9 月 21 日(水) | 3 | 1 | 8:00~16:00 | 校外学習の引率補助(第 4 学年 遠足:大子方面) ・個別な配慮が必要な児童への支援 | ・昼食代は実費 |

| | | | | | | | | |
|-----|--------|----------|--|----|----|--------------------------|---|--------------------|
| E18 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 9 月 23 日(金) | 2 | 1 | 8:00~16:00 | 校外学習の引率補助(第 3 学年 遠足:笠間方面) ・個別な配慮が必要な児童への 支援 | ・昼食代は実費 |
| E19 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 9 月 27 日(火) | 3 | 1 | 8:00~16:00 | 校外学習の引率補助(第 2 学年 遠足:かみね動物園) ・個別な配慮が必要な児童への 支援 | ・昼食代は実費 |
| E20 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 9 月 29 日(木)~30 日 (金) | 2 | 2 | 29 日 7:30~ 30 日 16:00 | 校外学習の引率補助(第 5 学年 宿泊学習:白浜少年自然の家) ・ウォークラリー・キャンプファイ ヤーの児童看護補助 | ・宿泊代・食事代は実費 |
| E21 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 10 月中旬 | 3 | 1 | 未定 | 校外学習の引率補助(第 2 学年 生活科:まち探検) ・個別な配慮が必要な児童への 支援 | |
| E22 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 10 月 27 日(木) | 10 | 1 | 8:30~12:00 | 授業における学習支援(ハミング ロードでのハロウィン) ・児童看護補助 | ・仮装をして参加 |
| E23 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 11 月 27 日(日) | 10 | 1 | 8:30~12:00 | 学校行事の補助(持久走大会の 伴走及び児童看護補助) | |
| E24 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 28 年 11 月下旬 | 6 | 3 | 要相談 | 授業における学習支援(第 2 学年 算数:かけ算九九暗唱確認テスト の支援) | |
| E25 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 29 年 1 月下旬 | 2 | 8 | 要相談 | 授業における学習支援(第 5 学 年 体育:跳び箱運動の支援) | |
| E26 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 29 年 1 月下旬 | 3 | 8 | 要相談 | 授業における学習支援(第 1 学 年 体育:縄跳び運動の支援) | |
| E27 | 浜田小学校 | 石川聡 教諭 | 平成 29 年 2 月中旬 | 6 | 3 | 要相談 | 授業における学習支援(第 2 学 年 体育:縄跳び運動の支援) ・なわとび検定において、回数を 数える | |
| E28 | 緑岡小学校 | 黒木 明子 教諭 | 平成 28 年 11 月 11 日(金) ※ 予備日は平成 28 年 11 月 16 日 (水) | 10 | 1 | 9:00~11:30 | 学校行事の補助(持久走大会の 準備及び競技中の走行誘導等 の補助) | |
| E29 | 上大野小学校 | 高村ひろこ 教諭 | 平成 28 年 9 月 1 日(木)~10 月 4 日 (火) | 3 | 15 | 14:00~16:00 | 授業における学習支援(陸上運 動の指導補助) | |
| E30 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 28 年 5 月 23 日(月)~7 月 20 日 (水) | 4 | 15 | 9:30~12:30 | 授業における学習支援(第 1 学 年 ~第 4 学年の算数) ・個別支援 | ・実施日については相談 可 |
| E31 | 吉田小学校 | 黒羽洋嗣 教諭 | 平成 28 年 9 月 12 日(月)~10 月 5 日 (水) | 10 | 15 | 14:30~16:00 | 授業における学習支援(第 6 学 年 体育:陸上運動) ・各種目練習の指導補助 | |
| E32 | 吉田小学校 | 黒羽洋嗣 教諭 | 平成 28 年 11 月 | 10 | 1 | 未定 | 学校行事の補助(持久走大会の 児童看護補助) | |
| E33 | 吉田小学校 | 黒羽洋嗣 教諭 | 平成 29 年 2 月 | 10 | 1 | 未定 | 学校行事の補助(縄跳び大会の 児童看護補助) | |
| E34 | 石川小学校 | 岡部佐知子 教諭 | 平成 28 年 7 月 25 日(月)~29 日 (金) | 10 | 5 | 未定 | 授業における学習支援(学びの 広場サポートプラン) | ・すべてに参加できなくて も可 |
| E35 | 石川小学校 | 岡部佐知子 教諭 | 平成 28 年 11 月 22 日(火) | 4 | 1 | 未定 | 学校行事の補助(持久走大会) | |
| E36 | 石川小学校 | 岡部佐知子 教諭 | 平成 28 年 1 月~2 月 | 6 | 15 | 未定 | 授業における学習支援(体育:縄 跳び) ・縄跳び検定 | ・すべてに参加できなくて も可 |

| | | | | | | | | |
|-----|--------|-----------|---|---|----|------------------------------------|--|------------------------------|
| E37 | 河和田小学校 | 野沢恵美子 教諭 | 平成 28 年 9 月 12 日(月)～10 月 5 日(水) | 4 | 15 | 月: 13:50～16:00 火～金: 14:40～16:30 | 学校行事の補助(陸上競技) ・練習準備と補助 | |
| E38 | 河和田小学校 | 野沢恵美子 教諭 | 平成 28 年 9 月 21 日(水) | 4 | 1 | 8:15～16:00 | 校外学習の引率補助(第 2 学年遠足:アクアワールド) | |
| E39 | 河和田小学校 | 野沢恵美子 教諭 | 平成 28 年 10 月 13 日(木) | 4 | 1 | 8:15～16:00 | 校外学習の引率補助(第 1 学年遠足:県立植物園) | |
| E40 | 河和田小学校 | 野沢恵美子 教諭 | 平成 28 年 10 月 21 日(金) | 4 | 1 | 8:15～16:00 | 校外学習の引率補助(第 3 学年遠足:筑波山登山) | |
| E41 | 上中妻小学校 | 井坂真理子 教諭 | 平成 28 年 9 月 12 日(月)～10 月 5 日(水) | 2 | 14 | 14:30～16:30 | 授業における学習支援(体育:陸上運動) ・練習補助 | |
| E42 | 上中妻小学校 | 井坂真理子 教諭 | 平成 28 年 9 月 30 日(金) | 3 | 1 | 8:30～15:00 | 校外学習の引率補助(第 1 学年及び第 2 学年遠足:かみね公園) | |
| E43 | 上中妻小学校 | 井坂真理子 教諭 | 平成 28 年 10 月 7 日(金) | 3 | 1 | 8:15～16:00 | 校外学習の引率補助(第 3 学年及び第 4 学年遠足:ミュージアムパーク) | |
| E44 | 上中妻小学校 | 井坂真理子 教諭 | 平成 28 年 10 月 13 日(木)～14 日(金) | 3 | 2 | 29 日 8:15～ 30 日 17:00 | 校外学習の引率補助(第 5 学年宿泊学習:こどもの城) | |
| E45 | 上中妻小学校 | 井坂真理子 教諭 | 平成 28 年 11 月 2 日(水) | 3 | 1 | 7:30～18:00 | 校外学習の引率補助(第 6 学年遠足:東京方面) | |
| E46 | 見川小学校 | 遠藤愛美 養護教諭 | 平成 28 年 10 月中旬～11 月上旬 | 4 | 1 | 12:30～16:00 | 学校行事の補助(就学時健康診断の補助) | ・教育学部養護教諭養成課程の 3 年生, 4 年生を希望 |
| E47 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 10 月中旬～11 月上旬 | 4 | 1 | 13:00～16:00 | 学校行事の補助(就学時健康診断の補助) ・歯科検査・内科検査時の補助 ・児童看護補助 | |
| E48 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月 18 日(金) | 5 | 1 | 8:00～12:30 | 学校行事の補助(持久走大会) ・800m～1200mの伴走を数回 ・計時, 記録, 児童看護の補助 | |
| E49 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月～12 月上旬 | 4 | 2 | 8:10～12:30 | 授業における学習支援(第 1 学年 算数:たし算ひき算) ・計算カードを使って練習する際のチェック | |
| E50 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月～12 月上旬 | 4 | 2 | 8:10～12:30 | 授業における学習支援(第 2 学年 算数:かけ算) ・九九を唱える際のチェック | |
| E51 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 29 年 1 月～2 月上旬 | 4 | 2 | 8:10～12:30 | 授業における学習支援(第 2 学年 体育:縄跳び) ・跳んだ回数を数える ・児童看護補助 | |
| E52 | 双葉台小学校 | 石塚忍 教諭 | 平成 29 年 2 月 1 日(水)～2 月 28 日(水) | 2 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(第 1 学年 体育:マット運動) | ・体育科の学生を希望 |
| E53 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 28 年 6 月 8 日(水)～10 日(金) | 2 | 3 | 9:30～12:30 | 学校行事の補助(体カテスト) ・主に低学年の補助 | |
| E54 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 28 年 7 月 21 日(木), 22(金), 25 日(月), 26 日(火), 27 日(水) | 3 | 5 | 8:30～12:00 | 授業における学習支援(学びの広場サポートプラン) | |
| E55 | 赤塚小学校 | 佐藤光央 教諭 | 平成 28 年 7 月 21 日(月), 22(火), 25 日(月), 26 日(火), 27 日(水) | 4 | 5 | 8:20～12:00 | 授業における学習支援(学びの広場サポートプラン, 水泳指導) ・学びの広場 8:20～10:10 ・水泳指導 10:15～11:30 | ・4, 5 年生の算数の指導ができる学生希望 |

| | | | | | | | | |
|-----|---------|---------|---|---|----|---------------------------------|---|--------------------------------------|
| E56 | 赤塚小学校 | 佐藤光央 教諭 | 平成 28 年 11 月 19 日 (土) | 5 | 1 | 9:00~15:30 | 学校行事の補助(赤小まつり) ・PTAとの連携による行事 ・模擬店・各種イベントの手伝い ・児童看護補助 | ・雨天でも実施 ・児童や保護者とコミュニケーションの取れる学生希望 |
| E57 | 稲荷第二小学校 | 藤枝則子 教頭 | 平成 28 年 6 月 1 日(水)~ 30 日(木) | 1 | 6 | 要相談 | 授業における学習支援(第 3 学年 及び第 4 学年音楽:歌唱指導) ・「音楽のつどい」に向けた練習 | |
| E58 | 稲荷第二小学校 | 藤枝則子 教頭 | 平成 28 年 9 月 1 日(木)~ 30 日(金) | 2 | 10 | 15:50~16:45 | 授業における学習支援(第 6 学年 体育:陸上競技) ・陸上記録会に向けた練習補助 | |
| E59 | 吉沢小学校 | 戸田康昭 教諭 | 平成 28 年 6 月 20 日(月) ~7 月 1 日(金) | 2 | 10 | 9:30~12:00 (水曜日のみ 10:30~) | 授業における学習支援(体育:水泳) | ・雨天の場合は中止 |
| E60 | 堀原小学校 | 齋田由加理教諭 | 平成 28 年 5 月~平成 29 年 2 月 | 1 | 15 | 要相談 | 合唱団の練習 音楽の授業に おける合唱指導 音楽集会の 補助 | |
| E61 | 堀原小学校 | 齋田由加理教諭 | 平成 28 年 5 月~平成 29 年 2 月 | 2 | 15 | 要相談 | 金管バンドの練習 音楽集会の補助 | ・金管楽器等の演奏経験者希望 |
| E62 | 堀原小学校 | 齋田由加理教諭 | 平成 28 年 9 月上旬~10 月 | 5 | 15 | 午後 | 授業における学習支援(第 6 学年 体育:陸上運動) | ・専門的な技能不要 |
| E63 | 下大野小学校 | 大武博之 教諭 | 平成 28 年 10 月 12 日(水) ~13 日(木) | 2 | 2 | 未定 | 校外学習の引率補助(第 4, 5 学年 宿泊学習:西山研修所) | |
| E64 | 鯉淵小学校 | 綿引睦子教諭 | 平成 28 年 5 月 16 日(月) ~7 月 11 日 (月)の毎週月曜日 ※ 5 月 30 日(月)を除く | 1 | 8 | 9:35~12:20 | 授業における学習支援及び話し 相手 ・知的障害支援学級在籍の女子 児童に対する支援 | ・小さな子どもの対応経験 のある学生希望 |
| E65 | 内原小学校 | 安村英樹 教諭 | 平成 28 年 10 月 21 日(金) | 6 | 1 | 8:00~15:00 | 校外学習の引率補助(ミニハイキ ング) | |

< 中学校 >

| 支援活動No. | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | その他 |
|---------|-------|----------|---|----|----|-------------|---|--|
| J1 | 緑岡中学校 | 小林明子 教諭 | 平成 28 年 5 月 27 日(金) | 5 | 1 | 7:30~16:30 | 校外学習の引率補助(第 1 学年 遠足) 筑波山登山 | |
| J2 | 第二中学校 | 佐川正久 教諭 | 平成 28 年 6 月 9 日(木)~7 月 14 日(木), 10 月 5 日~11 月 17 日 (木)の毎週木曜日 ※6 月 23 日(木)は除く | 5 | 11 | 13:15~16:45 | 授業における学習支援(第 1 学 年 及び第 3 学年数学, 学びの広 場) ※「学びの広場」については全学 年(国・数・英) | |
| J3 | 笠原中学校 | 秋山勉 教諭 | 平成 28 年 8 月 1 日(月)~4 日(木) | 12 | 2 | 8:15~11:30 | 授業における学習支援(学びの 広場サポートプラン) ※教科は数学科 | ・2 日間ともできる 学生対象 |
| J4 | 石川中学校 | 綿引晴夫 講師 | 平成 28 年 5 月 31 日(火)~7 月 15 日(金)の毎週火・水・金曜日 | 1 | 15 | 10:30~12:30 | 授業における学習支援(技術科: 木工製作の補助) | ・2~3 名で火・水・ 金曜日をそれぞ れ分担任しても可 |
| J5 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 28 年 6 月~平成 29 年 2 月 | 3 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(数学) | ・案 1: 週 1 日程度 ・案 2: 週 3 日程度 で特定の単元のみ |
| J6 | 石川中学校 | 野口真納美 教諭 | 平成 28 年 6 月~9 月の毎週火・ 水・金曜日 | 2 | 15 | 3, 4 校時 | 授業における学習支援(家庭科: ハーフパンツの製作補助) ・ミシンの操作補助 | ・女子学生希望 |

2. 9月募集

<小学校>

| 支援活動N | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | 備考 |
|-------|--------|----------|---|----|----|------------------|---|---|
| E66 | 緑岡小学校 | 黒木 明子 教諭 | 平成 28 年 11 月 9 日(水) ※ 予備日は平成 28 年 11 月 16 日(水) | 10 | 1 | 9:00~11:30 | 学校行事の補助(持久走大会の準備及び競技中の走行誘導等の補助) | ・運動しやすい服装で参加 ・学校集合後貸切バスで「四季の原」公園へ移動 |
| E67 | 上大野小学校 | 五十川淳一 教諭 | 平成 28 年 9 月~平成 29 年 2 月 | 4 | 5 | 要相談 (2時間程度) | 授業における学習支援(体育の指導補助) ※ 陸上記録会の練習, 持久走大会の試走, 縄跳び大会等 | ・体育教諭を目指す学生希望 ・陸上記録会当日は全日の支援を希望 ・詳しい日時は各学生と調整 |
| E68 | 上大野小学校 | 五十川淳一 教諭 | 平成 28 年 9 月~平成 29 年 2 月 | 4 | 5 | 要相談 (2~3時間程度) | 授業における学習支援(理科の指導補助) ※ 鳥の観察会, 川の観察会, 草木染め教室, サケの放流等 | ・理科教諭を目指す学生希望 ・詳しい日時は各学生と調整 |
| E69 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 28 年 9 月~12 月 | 6 | 15 | 8:30~12:15 | 授業における学習支援(第 1 学~第 6 学年の算数) ※ 個別支援 | ・実施日については各学生と調整 |
| E70 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 28 年 9 月~平成 29 年 2 月 | 4 | 15 | 8:30~12:15 | 特別な支援を要する児童に対する個別支援(特別支援学級や交流学級での授業) | ・実施日については各学生と調整 |
| E71 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 29 年 1 月~2 月 | 6 | 15 | 8:30~12:15 | 授業における学習支援(第 1 学~第 6 学年の算数) ※ 個別支援 | ・実施日については各学生と調整 |
| E72 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 28 年 11 月 26 日(土) | 15 | 1 | 8:00~12:15 | 学校行事の補助(持久走大会の運営補助及び児童看護補助) | |
| E73 | 吉田小学校 | 黒羽洋嗣 教諭 | 平成 28 年 9 月 28 日(水) | 4 | 1 | 8:00~16:00 | 校外学習引率補助(第 2 学年遠足:笠間方面) ※ 個別な支援が必要な児童への支援 | ・昼食代等は実費 |
| E74 | 吉田小学校 | 黒羽洋嗣 教諭 | 平成 28 年 10 月 6 日(木) | 3 | 1 | 7:00~16:00 | 校外学習の引率補助(陸上記録会) ※ 児童看護補助 | ・昼食代等は実費 ・延期の際は当日の朝に連絡 |
| E75 | 見川小学校 | 芦間登巳司 教諭 | 平成 28 年 9 月 26 日(月) ~11 月 25 日(金) | 2 | 15 | 8:45~12:20 | 授業における学習支援(第 1 学年 体育) ※ 主に跳び箱, マット運動 | |
| E76 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月 7 日(月) | 5 | 1 | 12:00~16:00 | 学校行事の補助(就学時健康診断の補助) ※ 歯科検査・内科検査時の補助, 児童看護補助 | ・教育学部養護教諭養成課程の学生を希望 |
| E77 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 10 月~11 月上旬 | 4 | 1 | 8:00~12:30 | 校外学習引率補助(第 2 学年生活科) ※ 児童のグループに引率, チェックポイントで児童観察等 | ・雨天の場合は延期あり |
| E78 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月 17 日(木) | 5 | 1 | 8:00~12:30 | 学校行事の補助(持久走大会) ・800m~1200mの伴走を数回 ・計時, 記録, 児童看護の補助 | ・雨天の場合は延期あり |
| E79 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月~12 月上旬 | 4 | 2 | 8:10~12:30 | 授業における学習支援(第 1 学算数:たし算ひき算) ・計算カードを使って練習する際のチェック | |
| E80 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 28 年 11 月~12 月上旬 | 4 | 2 | 8:10~12:30 | 授業における学習支援(第 2 学算数:かけ算) ・九九を唱える際のチェック | |
| E81 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 29 年 1 月~2 月上旬 | 4 | 2 | 8:10~12:30 | 授業における学習支援(第 2 学体育:縄跳び) ・跳んだ回数を数える ・児童看護補助 | |
| E82 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 28 年 9 月 23 日(金) | 4 | 1 | 8:30~12:00 | 校外学習引率補助(第 3 学年まごころタイム「逆川探検」) ※ 学校から逆川へ徒歩で移動 | |

| | | | | | | | | |
|-----|---------|----------|--------------------------------------|---|----|------------------------|----------------------|----------------------------|
| E83 | 堀原小学校 | 齋田由加理教諭 | 平成 28 年 9 月～平成 29 年 2 月 | 2 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(特別支援学級中心) | ・詳しい日時は各学生と調整 |
| E84 | 堀原小学校 | 齋田由加理教諭 | 平成 28 年 9 月上旬～10 月 | 5 | 15 | 午後 (体育の時間) (放課後) | 第 6 学年体育:陸上運動の練習 補助 | ・専門的な技能不要 ・詳しい日時は各学生と調整 |
| E85 | 稲荷第二小学校 | 藤枝 則子 教頭 | 平成 28 年 9 月 2 日(金)～9 月 30 日(金) 月・火・金 | 6 | 12 | 15:45～16:45 | 第 6 学年体育:陸上運動の練習 補助 | |
| E86 | 稲荷第二小学校 | 藤枝 則子 教頭 | 平成 28 年 9 月 1 日(木)～9 月 29 日(木) 水・木 | 6 | 8 | 14:40～16:45 | 第 6 学年体育:陸上運動の練習 補助 | |

<中学校>

| 支援活動N | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | その他 |
|-------|-------|----------|---|----|----|-------------|--|--------------------------------|
| J7 | 見川中学校 | 小林優人 教諭 | 平成 28 年 9 月 1 日(木) ～11 月 18 日 (金) | 5 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(第 1 学年 技術科:製作の補助) | ・詳しい日時は各学生と調整 |
| J8 | 見川中学校 | 栗原 裕弥 教諭 | 平成 28 年 9 月～平成 29 年 2 月 | 3 | 15 | 要相談 | 授業における学習支援(第 1 学年 及び 2 学年理科:観察・実験 補助 及び準備・片付け) | ・理科教諭を目指す学生希望 ・詳しい日時は各学生と調整 |
| J9 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 28 年 9 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J10 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 28 年 10 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J11 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 28 年 11 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J12 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 28 年 12 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J13 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 29 年 1 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J14 | 石川中学校 | 田所由紀 教諭 | 平成 29 年 2 月 | 2 | 15 | 8:40～12:30 | 授業における学習支援(数学) ※ 特に進度が遅れている生徒への個別支援 | |
| J15 | 石川中学校 | 野口真納美 教諭 | 平成 28 年 10 月～平成 29 年 1 月 | 2 | 10 | 10:40～12:30 | 授業における学習支援(第 1 学年 及び 2 学年家庭科:調理実習 補助) | ・女子学生希望 |

3. 1月募集

<幼稚園>

| 支援活動No. | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | 備考 |
|---------|-------|---------|---------------|----|----|------------|---|--|
| K1 | 五軒幼稚園 | 綿引紀子 教頭 | 平成29年2月16日(木) | 2 | 1 | 8:30~13:30 | 園外保育の引率補助 (城東幼稚園との交流) ※ 城東幼稚園へ路線バスへ乗って移動 | |
| K2 | 見川幼稚園 | 加藤聡子 教頭 | 平成29年1月20日(金) | 2 | 1 | 8:00~13:30 | 園行事の補助 (新入園児1日入園) ※ 一緒に遊ぶ, 弁当を食べる, 新入園児の安全確保 | ・動きやすい服装で参加 ・持ち物(運動靴, 上靴, 弁当, 飲み物, 帽子等) |
| K3 | 見川幼稚園 | 加藤聡子 教頭 | 平成29年2月3日(金) | 2 | 1 | 8:00~13:30 | 園行事の補助 (節分, 豆まき) ※ 一緒に遊ぶ, 豆まきの際は鬼になって逃げる | ・動きやすい服装で参加 ・持ち物(運動靴, 上靴, 弁当, 飲み物, 帽子等) |

<小学校>

| 支援活動No. | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | 備考 |
|---------|--------|----------|--|----|----|---|---|--|
| E87 | 三の丸小学校 | 飯塚宏昭 教諭 | 平成 29 年 1 月 17 日(火), 19 日(木), 20 日(金), 24 日(火), 26 日(木), 27 日(金) | 10 | 6 | 17 日, 24 日 8:40~11:25 19 日, 26 日 9:30~11:25 20 日, 27 日 8:40~9:25 | 授業における学習支援 (第2学年体育科 縄跳び) | |
| E88 | 三の丸小学校 | 飯塚宏昭 教諭 | 平成 29 年 1 月 31 日(火), 2 月 7 日(火) | 4 | 2 | 9:30~11:25 | 授業における学習支援 (第5学年家庭科 ミシン学習) | |
| E89 | 寿小学校 | 霜田豊 教頭 | 平成 29 年 1 月 6 日(金)~2 月 28 日(火) | 3 | 15 | 8:10~15:25 | ・授業における学習支援 ・休み時間における児童の遊び相手及び話し相手 (第1学年2学級, 第4学年1学級) | ・男性2人, 女性1人希望 |
| E90 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 29 年 1 月 10 日(火)~2 月 28 日(火) | 6 | 15 | 8:30~12:15 | 授業における学習支援 (第1学年~第6学年の算数) ※ 個別支援 | ・実施日については各学生と調整して決定する |
| E91 | 渡里小学校 | 上宮正人 教頭 | 平成 29 年 1 月 10 日(火)~2 月 28 日(火) | 4 | 15 | 8:30~12:15 | 特別な支援を要する児童に対する個別支援 (特別支援学級や交流学級) | ・実施日については各学生と調整して決定する |
| E92 | 河和田小学校 | 野沢恵美子 教諭 | 平成 29 年 1 月 10 日(火)~2 月 10 日(金) | 2 | 15 | 9:25~12:10 | 授業における学習支援 (第1学年~第3学年の算数・体育) | |
| E93 | 千波小学校 | 石井隆子 教諭 | 平成 29 年 1 月~2 月上旬 | 4 | 2 | 8:10~12:30 | 授業における学習支援 (第2学年 算数科「かけざん」) ※ 児童が唱えるかけざん九九のチェック | |
| E94 | 笠原小学校 | 海藤一幸 教頭 | 平成 29 年 1 月 10 日(火)~2 月 28 日(火) 週に2回程度 | 3 | 14 | 午前・午後どちらでも可 | 特別な支援を要する児童に対する個別支援 (第1学年, 第2学年, 第4学年における学習支援) | ・週1回でも可 |
| E95 | 下大野小学校 | 鈴木稔 教頭 | 平成 29 年 1 月 11 日(水)~2 月 22 日(水) 毎週水曜日 | 2 | 7 | 15:00~16:45 | 放課後子ども教室における児童への学習支援 (指導をしている先生の補助) | ・放課後子供教室では上下学年別に時間を分けて, 宿題や自主学習, 読み聞かせや外遊びを行っています。 |
| E96 | 内原小学校 | 菊池佐栄子 教諭 | 平成 29 年 2 月 15 日(水) | 2 | 1 | 9:00~14:00 | 学校行事の補助 (第6学年バイキング給食) ※ 配膳準備, 説明, 会食等 | ・女性を希望 |

<中学校>

| 支援活動No. | 希望校 | 担当者名 | 派遣希望日 | 人数 | 日数 | 時間 | 支援を受けたい内容 | その他 |
|---------|-------|---------|---|----|----|-------------------|--|---------------------------|
| J16 | 第一中学校 | 白石彩 講師 | 平成 29 年 1 月 10 日(火)~2 月 17 日(金) | 3 | 6 | 要相談 (2時間続きの授業) | 授業における学習支援 (第1学年家庭科の調理実習) ※ 調理実習中の安全確保及び個別支援 | |
| J17 | 緑岡中学校 | 矢口智之 教諭 | 平成 29 年 1 月 27 日(金) ※ 予備日 平成 29 年 2 月 3 日(金) | 5 | 1 | 8:00~15:00 | 校外学習の引率補助 (第2学年立志活動「歩く会」) | ・およそ 20 km歩きます |
| J18 | 赤塚中学校 | 住谷浩 教諭 | 平成 29 年 2 月 6 日(月)~2 月 17 日(金) | 3 | 10 | 8:40~15:20 | 授業における学習支援 (第1学年, 第2学年 数学科) ※ 個別支援 | |
| J19 | 笠原中学校 | 秋山勉 教諭 | 平成 29 年 2 月 21 日(火)~2 月 22 日(水) | 18 | 2 | 16:00~17:15 | 定期テスト前の学習相談の支援 (第2学年 数学科・英語科が中心) | ・6学級あります ・1学級は34~35人です |

平成 28 年度 水戸市学校支援活動 活動状況

| 支援活動 No | 派遣先(学校・園名) | 活動の内容 | 活動人数 |
|---------|------------|-------------------------------|------|
| K1 | 五軒幼稚園 | 園外保育の引率補助 | 2 |
| K3 | 見川幼稚園 | 園行事の補助 | 1 |
| E1 | 三の丸小学校 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助等) | 2 |
| E3 | 浜田小学校 | 学校行事の補助(運動会の前日準備) | 2 |
| E6 | 見川小学校 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助等) | 2 |
| E7 | 千波小学校 | 学校行事の補助(運動会の救護係の補助等) | 1 |
| E10 | 赤塚小学校 | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助等) | 2 |
| E12 | 堀原小学校 | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助等) | 6 |
| E13 | 内原小学校 | 学校行事の補助(運動会の準備及び競技補助等) | 2 |
| E16 | 浜田小学校 | 校外学習の引率補助 大洗アクアワールド | 3 |
| E17 | 浜田小学校 | 校外学習の引率補助 大子方面 | 3 |
| E23 | 浜田小学校 | 持久走大会の補助 | 2 |
| E30 | 渡里小学校 | 授業における学習支援・個別支援 | 4 |
| E32 | 吉田小学校 | 持久走大会の児童看護補助 | 1 |
| E34 | 石川小学校 | 授業における学習支援(学びの広場サポートプラン) | 1 |
| E36 | 石川小学校 | 授業における学習支援(体育・縄跳び) | 4 |
| E54 | 笠原小学校 | 授業における学習支援(学びの広場サポートプラン) | 2 |
| E55 | 赤塚小学校 | 授業における学習支援(学びの広場サポートプラン)、水泳学習 | 5 |
| E56 | 赤塚小学校 | 学校行事補助(赤小まつり) | 1 |
| E59 | 吉沢小学校 | 授業における学習支援(体育:水泳) | 1 |
| E60 | 堀原小学校 | 合唱団の練習、音楽の授業における合唱指導、音楽集会の補助 | 1 |
| E61 | 堀原小学校 | 金管バンドの練習、音楽集会の補助 | 1 |
| E65 | 内原小学校 | 校外学習の引率補助 | 1 |
| E67 | 上大野小学校 | なわとび大会支援 | 3 |
| E68 | 上大野小学校 | 草木染め教室支援 | 3 |
| E76 | 千波小学校 | 就学時健康診断の補助 | 3 |
| E78 | 千波小学校 | 学校行事の補助(持久走大会) | 1 |

| 支援活動 No | 派遣先(学校・園名) | 活動の内容 | 活動人数 |
|---------|------------|--------------------------|------|
| E79 | 千波小学校 | 授業における学習支援(第1学年算数) | 1 |
| E81 | 千波小学校 | 授業における学習支援(第2学年体育) | 6 |
| E82 | 笠原小学校 | 校外学習引率補助 | 1 |
| E83 | 堀原小学校 | 授業における学習支援 | 1 |
| E88 | 三の丸小学校 | 授業における学習支援(第5学年家庭科ミシン学習) | 4 |
| E90 | 渡里小学校 | 授業における学習支援 | 2 |
| E91 | 渡里小学校 | 特別な支援を要する児童に対する個別支援 | 1 |
| E93 | 千波小学校 | 授業における学習支援(第2学年算数) | 3 |
| E96 | 内原小学校 | 学校行事補助(第6学年バイキング給食) | 2 |
| J1 | 緑岡中学校 | 校外学習の引率補助 筑波山登山 | 1 |
| J5 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学) | 1 |
| J6 | 石川中学校 | 授業における学習支援(家庭科) | 1 |
| J9 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)9月 | 1 |
| J10 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)10月 | 1 |
| J11 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)11月 | 2 |
| J12 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)12月 | 2 |
| J13 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)1月 | 2 |
| J14 | 石川中学校 | 授業における学習支援(数学)2月 | 2 |
| J15 | 石川中学校 | 授業における学習支援(家庭科) | 2 |
| J16 | 第一中学校 | 授業における学習支援(第1学年家庭科調理実習) | 3 |
| J19 | 笠原中学校 | 定期テスト前の学習相談の支援 | 2 |

活動件数 48 件 (幼稚園 2 件、小学校 34 件、中学校 12 件) 活動延べ人数 101 人

平成 28 年度茨城大学教育学部と水戸市教育委員会との地域連携にかかる学校支援活動報告書
水戸市教育委員会

1 支援活動の実施状況

| 区 分 | 活動人数 | 活動日数 | 主な活動内容 |
|-----|------|------|--|
| 幼稚園 | | | 園行事（節分の豆まき行事） 園外保育（他園との交流会） |
| 小学校 | | | 各教科の学習支援，学校行事（運動会，持久走大会等）支援，その他児童の支援 等 |
| 中学校 | | | 各教科（数学，家庭等）の学習支援 放課後における学習支援 等 |
| 合計 | | | |

2 幼稚園，小・中学校の支援活動実施後の感想，要望

(1) 幼稚園

- ・支援学生は礼儀正しく，明るい雰囲気でも活動してくださいました。
- ・最初は緊張しているようでしたが，外遊びで体を動かし，仲良くなると，笑顔が見られるようになりました。
- ・幼児とのかかわりを楽しみながら，安全面等にも気を配ってくださいました。
- ・鬼役になり，手作りの鬼のお面と衣装を着て活動に参加してもらいました。支援学生は鬼になりきって逃げてくださいました。
- ・一日中幼児達と一緒に過ごし，思い切り遊んでくださいました。



【幼稚園の支援】

(2) 小学校

- ・運動会の救護係では，終日テント内の救護スペースを拠点に，養護教諭の指導のもと，競技等でけがを負った児童の看護に親身に取り組んでくださいました。協力してまじめに自分の役割を果たしてくださったので，とても助かりました。
- ・依頼した仕事に責任をもって取り組み，児童とも積極的に関わりをもってくださいました。
- ・児童の登校時刻に合わせて来校し，準備や後片付けも率先して取り組んでくださいました。準備係では，子ども達に寄り添いながら係のサポートを行い，運動会の成功に大きく貢献してくださいました。大変助かりました。
- ・学びの広場では，子ども達の登校時刻に合わせて来校し，子ども達を出迎えてくださいました。丸付けをしたり分からないところを教えたりする等，丁寧に関わってくださいました。

- ・水泳学習では、親身になって支援していただいた結果、6名の児童が25メートルを泳げるようになりました。
- ・約束した時間より早く来校していただき、児童の様子をきめ細かく見守っていただきました。やってあげるのではなく、困っている児童を助けるような接し方をしていただきました。
- ・指導の最後にクロールや平泳ぎの手本を見せていただいたことで、児童の水泳の意欲付けとなりました。
- ・適切な行動ができるので、安心してお願いすることができました。手際がよいので、予定時刻より早めに終わることができました。
- ・寒さが厳しい日々でしたが、朝早い時刻から来校し、児童の支援に熱心にあたってくださいました。休み時間には他学年の児童とも交流をもってくださいました。



【小学校の支援】

(3) 中学校

- ・明るく積極的に生徒と関わり、数学を苦手とする生徒の学力向上のために尽力してくださいました。
- ・何度も支援にあたってくださいっているので、生徒とのコミュニケーションも十分にとることができ、学力向上に大きく貢献してくださいました。
- ・計画的に作業が進み、生徒は怪我をすることなく調理実習を終えることができました。学習支援を行っていただき、大変ありがたかったです。



【中学校の支援】

3 教育委員会からの感想、要望

大学等との連携による学校教育支援活動は、平成17年に協定を締結して以来、多くの学校（園）で様々な活動を行っていただいております。支援学生の児童生徒に積極的に関わりながら支援を進めてくださる姿や朝早くから来校して授業等の準備も率先して取り組む姿に、支援をしていただいた学校（園）からは、学校支援活動が教育活動の大きな支えとなっているという感想をたくさんいただいております。

毎年、学校（園）からは数多くの支援活動の希望が出されており、学校支援活動に対する期待はますます大きなものとなっています。また、学校支援活動事業は、教育活動の支えになるばかりでなく、支援活動に参加した学生の皆さんにとっても、教職に就いた際に役立つものかと思っております。

今後も、この学校支援活動に積極的に参加していただき、教育活動を支えてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

平成 28 年度 県内教育支援ボランティア 活動状況

| No. | ボランティア名 | 募集先 | 参加人数 |
|-----|--------------------------|-----------------------|------|
| 1 | 県警サポーター | 茨城県警少年課 少年サポートセンター | 5 |
| 2 | 中学校の心の教室相談員 | 那珂市教育委員会 | 0 |
| 3 | 保護されている児童の生活支援 | 茨城県福祉相談センター 茨城県中央児童相談 | 2 |
| 4 | 保健室業務の補助 | 水戸市立双葉台中学校 | 2 |
| 5 | 水戸少年少女発明クラブ | 水戸市教育委員会事務局 教育部 生涯学習課 | 18 |
| 6 | 保健室支援ボランティア | 水戸市立吉沢小学校 | 3 |
| 7 | 水戸ピッコロ少年少女合唱団 補助 | 水戸ピッコロ少年少女合唱団 | 10 |
| 8 | 図書ボランティア | 水戸市立国田義務教育学校 | 5 |
| 9 | 柔道体験補助 | 附属幼稚園 | 4 |
| 10 | 養護ボランティア | 水戸市立双葉台小学校 | 1 |
| 11 | 運動会補助 | 那珂市立五台小学校 | 2 |
| 12 | 常陸大宮市ふれあいの船引率ボランティア | 常陸大宮市教育委員会 | 1 |
| 13 | 学習支援会「すてっぷ赤塚」 | 社会福祉法人水戸市社会福祉協議会 | 16 |
| 14 | 学童支援ボランティア | 学童クラブもろ | 1 |
| 15 | 英語の学習活動支援 | 日立市立大久保中学校 | 1 |
| 16 | 小美玉市小学生陸上記録会補助員 | 小美玉市教育研究会 保健体育部 | 3 |
| 17 | 平成 28 年度陸上記録会練習補助員 | かすみがうら市立七会小学校 | 1 |
| 18 | 健康診断補助 | 笠間市立笠間中学校 | 0 |
| 19 | スクールフェロー | 県南生涯学習センター | 5 |
| 20 | 学びの広場 | 水戸市総合教育研究所 | 0 |
| 21 | ボランティア講座 | 日立市立日立特別支援学校 | 0 |
| 22 | エンジョイホリデー補助 | 県南生涯学習センター | 0 |
| 23 | G・W イベント「こどもの城」 | 茨城県立児童センター 子どもの城 | 4 |
| 24 | 4 歳児クラスの遠足グループ活動支援 | 附属幼稚園 | 4 |
| 25 | 5 歳児クラスの遠足グループ活動支援 | 附属幼稚園 | 2 |
| 26 | 運動会運営支援 | 那珂市立横堀小学校 | 8 |
| 27 | 運動会支援 | 水戸市立渡里小学校 | 9 |
| 28 | 平成 28 年度東茨城地区中学校陸上競技大会補助 | 東茨城地区中学校体育連盟 | 2 |
| 29 | 学びの広場サポートプラン事業のサポーター | 水戸市立渡里小学校 | 10 |
| 30 | 学習支援 | 水戸市立渡里小学校 | 19 |
| 31 | とんとくサポーター | 県立友部特別支援学校 | 2 |
| 32 | ボランティア講座 | 水戸市役所障害福祉課 | 0 |

| No. | ボランティア名 | 募集先 | 参加人数 |
|-----|------------------------|--------------------------|------|
| 33 | 学習指導 | 児童養護施設 若草園 | 3 |
| 34 | 運動会補助 | 水戸市立堀原小学校 | 0 |
| 35 | 学習支援 | 水戸市立堀原小学校 | 4 |
| 36 | 学びの広場 | 水戸市立見川中 | 3 |
| 37 | 3 歳児クラスの遠足補助 | 附属幼稚園 | 1 |
| 38 | まちなんけん支援 | 水戸市立渡里小学校 | 0 |
| 39 | 夏のふれあい活動補助 | 附属小学校 | 4 |
| 40 | 学びの広場 サポートプラン | 水戸市立第五中学校 | 5 |
| 41 | サマーキャンプ・ボランティア | 野外教育研究財団 | 0 |
| 42 | 第 12 回那珂市小学校陸上競技記録会 | 那珂市教育研究会 | 4 |
| 43 | 水泳学習の学習支援 | 那珂市立横堀小学校 | 0 |
| 44 | 学びの広場サポートプラン事業 | 茨城県県南生涯学習センター 土浦市立大岩田小学校 | 0 |
| 45 | 茨城町・大洗町小学校合同陸上記録会 | 茨城町・大洗町教育研究会 保健体育教育研究部 | 1 |
| 46 | 学びの広場サポートプラン | 水戸市立笠原中学校 | 10 |
| 47 | 学習支援 | 茨城県立水戸豊学校(寄宿舎) | 6 |
| 48 | 平成 28 年度水戸市協働事業プレイパーク | Play-Park 310 (プレイパーク水) | 8 |
| 49 | 水泳の授業での指導補助 | 茨城県県南生涯学習センター 阿見町立実穀小学校 | 0 |
| 50 | 学習支援 | 水戸市立上中妻小学校 | 0 |
| 51 | 1・2 年生校外学習引率 | 水戸市立上中妻小学校 | 0 |
| 52 | 4 年生社会科見学引率 | 水戸市立上中妻小学校 | 0 |
| 53 | 授業参観補助 | 水戸市立上中妻小学校 | 0 |
| 54 | 女子バレーボール部 活動支援 | 水戸市立第一中学校 | 1 |
| 55 | 学びの広場サポートプラン学習支援ボランティア | 水戸市立飯富小学校 | 2 |
| 56 | 平成 28 年度 通級指導教室交流会 | 県立水戸豊学校 | 16 |
| 57 | 学びの広場サポーター | 水戸市立石川中学校 | 6 |
| 58 | 数学科授業における補充指導 | 水戸市立石川中学校 | 3 |
| 59 | 音楽授業(ワークショップ)体験 6 月 | 附属中学校 | 6 |
| 60 | 水戸市音楽のつどい引率・係補助 | 附属中学校 | 0 |
| 61 | 宿泊共同学習引率 (第 1 学年) | 附属中学校 | 2 |
| 62 | 宿泊共同学習引率 (第 2 学年) | 附属中学校 | 1 |
| 63 | 宿泊共同学習引率 (第 3 学年) | 附属中学校 | 2 |
| 64 | 納涼祭ボランティア | 特別養護老人ホーム誠信園 | 0 |

| No. | ボランティア名 | 募集先 | 参加人数 |
|-----|--------------------------|------------------------------|------|
| 65 | 体育祭の救護 | 水戸市立見川中学校 | 4 |
| 66 | 里山で暮らそう わんぱくキッズ隊 支援 | 茨城町教育委員会生涯学習課 | 0 |
| 67 | 夏休みの学習支援 | 茨城県南生涯学習センター つくば市立百合丘学園菅間小学校 | 0 |
| 68 | 放課後の学習支援 | 附属中学校 | 0 |
| 69 | 小学生へのミニバスケットボールの指導 | 新荘ミニバスケットボールスポーツ少年団 | 2 |
| 70 | 5歳児宿泊保育補助 | 付属幼稚園 | 6 |
| 71 | 朝の英会話ボランティア | 水戸市立新荘小学校 | 2 |
| 72 | 英会話授業支援ボランティア | 水戸市立新荘小学校 | 0 |
| 73 | 幼児・子ども・障がい児のボランティアスタッフ募集 | NPO 法人 HAL | 0 |
| 74 | 子ども学習支援事業無料塾 | 社会福祉法人石岡市社会福祉協議会 | 4 |
| 75 | 無料塾寺子屋プロジェクトチーム | ツクイ土浦デーサービスセンター | 2 |
| 76 | 養護教諭の活動補助 | 県南生涯学習センター 一 土浦市神立小学校 | 2 |
| 77 | キッズ サマー キャンプ in こどもの城 | 茨城県立児童センターこどもの城 | 3 |
| 78 | 宿泊学習 (5 学年) | ひたちなか市立長堀小学校 | 2 |
| 79 | 音楽授業(ワークショップ)体験 7 月 | 附属中学校 | 0 |
| 80 | 音楽授業(ワークショップ)体験 9 月 | 附属中学校 | 1 |
| 81 | 夏休みの学習支援(理科自由研究) | 水戸市立上大野小学校 | 3 |
| 82 | 宿泊学習 | 水戸市立城東小学校 | 4 |
| 83 | 茨城県生活困窮世帯のこどもの学習支援事業 | 認定 NPO 法人水戸こどもの劇場 (城里町) | 2 |
| 84 | 合唱のピアノ伴奏 | 水戸市立渡里小学校 | 3 |
| 85 | 1 年生の遠足支援 | 水戸市立渡里小学校 | 3 |
| 86 | 渡里元気村の活動支援 | 水戸市立渡里小学校 | 8 |
| 87 | 第 5 学年 宿泊を伴う共同生活学習 補助 | 那珂市立五台小学校 | 0 |
| 88 | 2 年生の遠足支援 | 水戸市立渡里小学校 | 3 |
| 89 | 3 年生の遠足支援 | 水戸市立渡里小学校 | 3 |
| 90 | 開放学級支援員 | 水戸市教育委員会 総合教育研究所 | 0 |
| 91 | 就学時健康診断 健診補助 | 水戸市立緑岡小学校 | 7 |
| 92 | 合奏の指導者 | 阿見町立実穀小学校 | 0 |
| 93 | 教育ボランティア | ひたちなか市立高野小学校 | 0 |
| 94 | 常陸大宮市子ども会 幹部研修会 | 常陸大宮市教育委員会 生涯学習課 | 1 |
| 95 | 2 年生の学区探検支援 | 水戸市立渡里小学校 | 5 |
| 96 | キッズワールド 2016 | 附属小学校 | 31 |

| No. | ボランティア名 | 募集先 | 参加人数 |
|-----|---------------------------|-------------------------|------|
| 97 | 持久走大会の児童看護支援 | 水戸市立渡里小学校 | 15 |
| 98 | 運動会支援 | 附属幼稚園 | 5 |
| 99 | かさまキッズモール2016 | 一般社団法人笠間青年会議所 | 0 |
| 100 | 子ども学習支援事業「おた塾」 | 常陸太田市役所社会福祉課 | 0 |
| 101 | 就学時健康診断の補助 | 水戸市立国田義務教育学校 | 14 |
| 102 | 校内合唱コンクール運営補助ボランティア | 附属中学校 | 3 |
| 103 | 県民の日 in こどもの城 | 茨城県立児童センターこどもの城 | 5 |
| 104 | ミニバスケットボール | 五軒ミニバスケットボール少年団(女子) | 0 |
| 105 | 第2学年生活科「町たんけん」 | 水戸市立梅が丘小学校 | 15 |
| 106 | プレイパーク(子どもの冒険遊び場) | Play-Park 310(プレイパークみと) | 5 |
| 107 | 小学校4・5・6年生の音楽授業における合唱指導補助 | 附属小学校 | 12 |
| 108 | ミニ運動会 | 水戸市立見川幼稚園 | 2 |
| 109 | 就学時健康診断 | 水戸市立寿小学校 | 1 |
| 110 | 小学生と敬老者の昔遊び交流会 | 土浦市立中村小学校 | 0 |
| 111 | 伊那谷子ども村冬キャンプ | 野外教育研究財団 | 0 |
| 112 | 公開授業研究会の運営補助 | 附属中学校 | 36 |
| 113 | こどもの城クリスマスキャッスル2016 | 茨城県立児童センターこどもの城 | 8 |
| 114 | 第5学年校外学習引率 | 附属小学校 | 11 |
| 115 | 学習支援 | 牛久市立牛久第二小学校 | 1 |
| 116 | 放課後勉強会(月)・二中学びの広場(木) | 水戸市立第二中学校 | 15 |
| 117 | 音楽会における運営支援・児童支援 | 附属小学校 | 9 |
| 118 | なわとび集会 | 水戸市立常磐小学校 | 9 |
| 119 | こどもの城 ボランティア養成講座 | 茨城県立児童センターこどもの城 | 3 |
| 120 | 理科観察実験アシスタント | 水戸市教育委員会 | 13 |
| | 合計 | | 511 |

2-2 ボランティア活動に参加した学生の感想

1. 水戸市学校支援活動

○幼稚園

【園外保育補助】

・みんなとっても元気でかわいかった。1つ1つ個人的に支援しないと、行動が遅れてしまう子には定期的に声かけをしなければいけないと感じた。1人の子の縄跳びを褒めたら、「私も出来るよ」と見せに来る子が次々として、やっぱり褒められることが大好きなんだなと感じた。

【園行事補助(節分・豆まき)】

・今回のボランティアは園児と遊んだり、食事をしたり、行事を一緒に楽しむことが主だったので、より密接にふれあい、コミュニケーションをとることができて、本当に有意義なものとなった。

○小学校

【校外学習の引率補助】

・実際に参加して、生の1年生の実態を見ることができた。児童に対して、声かけを行うことの大切さを改めて感じた。

・小学1年生の児童はとても明るく元気で「先生!!」と寄ってきてくれる子もいて、楽しいボランティア活動をすることができた。自由行動の時に走り回ってしまう児童もいたため、予想以上に疲れたが、小学校教育に触れることができ、非常に有意義な時間を過ごせた。

【運動会補助】

・効率的に運動会を行うためには誘導が大切であり、先生は何をすべきか、順番をしっかりと理解しておく必要があるということ学んだ。

・実際に養護教諭がどのように現場で動いて、対応にあたっているかと間近に学び、とても貴重な経験ができた。救急処置においては、やはり子どもを安心させることが大切であり、不安を取り除くための声かけや確かな技術が重要であることが分かった。

【2年生の体育補助】

・今回の活動では、縄跳びと鉄棒を見たが、子どもたちが、どこができないのか、どこを難しいと感じているのかをよみとることが非常に難しかった。そのため、どのような声かけをすればよいのかがよくわからなかった。それぞれの動きの仕組みを理解することが大切であり、かつ、子ども一人一人の到達度をよく観察することも大切だと感じた。

【家庭科のミシン補助】

・先生の指示通りに糸をかけられる子もいたが、よく聞いてもどのように通すのかが分からない子もいた。しかし、皆非常に熱心でボランティアの人の話も良く聞き、うまく通すことができた。布に縫うのも線上にきれいにまっすぐ縫うことができていた子が多かった。

・実際に自分でミシンを使用したり、操作するときには気にかけないような点を言葉で説明し、子どもたちに理解してもらうのは難しかったが、子どもたちのスムーズな学習活動に寄与することができたと感じている。自分にとっても学びとなった。

【2年生の算数補助】

・今回は2回目の活動で、子どもたちも私のことを覚えていてくれて、非常にやりやすく楽しかった。かけ算九九は第2学年の子どもたちにとって非常に重要な単元であるため、全員が積極的に、一生懸命覚えようとしていた。1人1人の覚え方や覚えるスピードが異なり、とても面白い

と感じた。同時にこれを教師一人でチェックするのは非常に困難だと思った。

【授業における学習支援】

・この活動を通して小学校の先生の大変さを感じることができた。子どもたちは皆が同じペースに合わせられる訳ではないので、常に教室を見まわして手助けをしなければならない。その一方で彼らはとても人懐っこくて、お話をしたり一緒に遊んだりする中で彼らの笑顔に元気をもらえた。

【就学時健康診断補助】

・実際に養護教諭がどのように計画・準備し、他教職員と連携を図り、当日動くかということが分かった。親と離れることに不安を示す幼児が多く、不安を取り除くことが難しかった。養護教諭一人で全てをまとめることは難しく、連携が大切であることを改めて感じた。

【小学校持久走大会補助】

・この活動が初めてのボランティア活動だったが、実際に児童と関わることで、彼らの活発さを直に感じることができ、本当に楽しかった。同じ学年内でも、落ち着きのない子や泣きやすい子や、色々な個性を持った子どもたちがいることも、この活動だけでも実感することができた。

【小学校縄跳びの補助】

・児童たちにどうやったら分かりやすくなわとびのコツを教えられるかということをしごく考えた。児童たちの“できた”という瞬間を見るのがしごく嬉しかった。
・児童の皆が少しずつ上手くなっていく姿をみて、もっとうまくなってほしいと、教えるのが楽しくなっていった。関わるうちに仲良く、信頼関係も築けてきて一緒に頑張ることがとても嬉しかった。

【就学時健康診断補助】

・実際に養護教諭がどのように計画・準備し、他教職員と連携を図り、当日動くかということが分かった。親と離れることに不安を示す幼児が多く、不安を取り除くことが難しかった。養護教諭一人で全てをまとめることは難しく、連携が大切であることを改めて感じた。

○中学校

【調理実習補助】

・教師一人で調理実習を行う大変さを知った。レシピの工夫、調味料の場所なども生徒の動きを考える必要があるということを知った。

【数学の学習支援】

・現在の中学生はどのようなところでつまづきやすいのか、数学に対する生徒の興味・関心の度合いを知ることができた。学校現場の状況を確認し、生徒の実態を知り、その状況に応じた対応をすることができた。

2. 県内教育支援ボランティア活動

【運動会補助】

児童が「先生」と呼んでくれて頼ってくれるのはとても嬉しかったし、身の引きしめる思いがした。低学年が中心で、誘導をしたり並ばせたりするのはとても大変だったが、教職員の方々も一緒だったので心強かった。今まで参加する側だったので、学校行事の運営の大変さを知れて貴重な体験ができ良かった。

【学習支援】

初めてのボランティアで、子ども達と関わるのが不安だったが、積極的に質問等をしてもらえたおかげで、よく教えることができたと感じる。子ども達は意欲的に学習に取り組んでいた。貴重な経験ができてよかった。

【プレイパーク】

3歳から中学生までの幅広い年齢の子ども達と触れ合える機会はなかなかないので、とても貴重な経験になりました。実際に子ども達と触れ合うことで授業では学べないようなことを学ぶことができたと思います。これからも積極的にボランティア活動に参加したいと思います。

【遠足支援】

先生方は、現地の混み具合など、状況に応じて集合時間を変更するなど柔軟に対応していたり、昼食の時間は児童が食べはじめて少し落ちついたすきにさっと昼食をすませ、児童の様子をよく見たりしてすごいと思った。

児童の様子は、学校とはちがった環境のなかで、思ったよりも落ちついて行動していて、小学1年生なのに班別行動できていることにおどろいた。

学校とはちがった一面を見ることができ、有意義な時間を過ごせた。

【宿泊学習補助】

最初は子どもたちどうまくやっていけるか不安であったが、先生方や児童たちはあたたかく私を迎えてくれた。非常に活発的な子どもたちでまとめることが困難な場面もあった。しかし、人懐っこい性格の子たちが多くずっと「せんせー、せんせー」と私にかけよってきてくれた。

2日間充実した時を過ごせた。また機会があれば是非参加していきたいと思う。

【校外学習引率】

自分達がボランティアをしたいと考え、活動するに至ったためか、子ども達は皆積極的にごみ拾いをしていった。清掃指導では、声掛けをよくすることができた。学校から活動場所への移動の際の交通安全の確保では、強い責任感を感じた。

【看護支援】

児童が頑張る姿を間近でみて、感動した。走り終えた児童の顔からは達成感がにじみ出ていた。それを、教師になり共に味わいたいと強く思った。また、行事を運営する上で様々な人が関わり前々から入念に打ち合わせを行って当日を迎えているのだなということを近くで感じる事ができた。教師は、子の安全を守るため常に気配りをしなくてははいけないことを学んだ。

【茨城県警大学生サポーター】

農業体験中の少年たちはとても表情がよく、私の話しかけにも抵抗なく答えていました。非行少年というに関わりにくいイメージを抱いていましたが、共に活動を楽しむことでそのようなイメージも関係なく1人1人の人として接するきっかけとなりました。

【施設支援】

実習の中で児童養護施設で暮らす児童と関わったことはあったが、1人1人とじっくり関わるのは初めてであり、学習という点だけではなく、その児童の毎週の様子を知れること、毎週関われることで多くのことを学べた。

【宿泊保育補助】

自分が思っている以上に園児と接することが難しかった。先生として補助に入っているのに友だちのような関係になってしまって厳しく怒ることができなかったり、6人みんなに自分の力不足を感じさせられた。だからこそ、大学でもっと学びたいという気持ちがでてきた。

【子どもの城イベント補助】

このような子どもたちと一緒に遊ぶボランティアに参加したのは高校の時以来だったので、とても楽しかった。多くの子ども達と触れ合うことが出来て、自分にとっていい経験になったと思う。子ども達の楽しそうな笑顔を見ることが出来たことが、何より嬉しかった。又、他のスタッフの方々とも沢山交流出来て、お話を聞くことが出来てよかった。

【渡里元気村】

昨年に引き続き、2回目となる渡里元気村のボランティアでしたが、今回は主にスライム教室で児童とたくさん触れ合うことができた。どの液体が反応してスライムになるなどは、その場で先生方に教えて頂いた知識であったが、子ども達に自分なりに分かり易く教えられる様に努めた。渡里小学校の温かい雰囲気に触れながら活動出来てとても良かったと思う。

2-3 理科観察実験支援事業

水戸市教育委員会

1 事業の趣旨

小学校・中学校等における理科の観察・実験活動の充実を図るため、観察実験アシスタント（大学（院）生，退職教員，研究機関・企業等の研究者・技術者，地域人材など）が次の内容について支援を実施する。

- ①理科室及び理科準備室などの理科教育に使用する特別教室の環境整備
- ②理科の観察・実験活動に係る準備，調整，片付け
- ③その他，理科の観察・実験活動の充実に資すること

2 観察実験アシスタントの身分等

- ・ 水戸市の臨時職員となります。
- ・ 勤務時間は授業の打合せ，準備，授業支援，後片付け，理科環境の整備等を含みます。
- ・ 報酬は1時間当たり1,000円です。
- ・ 通勤手当は水戸市の規定により支給されます。

3 派遣先学校の感想

- ・ 実験の準備や片付けがとてもスムーズに進み，大変助かりました。実験の際は，役割分担をし，各グループの実験をサポートしてくださいました。また，実験の結果がうまくいかなかった班には，学生が支援してくださり再実験を行うことができたため，よりよい実験結果を得ることができました。
- ・ 実験器具の基本的操作や，振り返りに活用する掲示物づくり等を実験アシスタントの方が連携しながら積極的に行ってくださいました。授業での活用頻度も高く，大変助かりました。
- ・ 実験器具のラベル貼り等を手伝っていただき，理科室・理科準備室内の実験器具の整理整頓を行うことができました。
- ・ 次時の打ち合わせでは，共通理解を図るため，打ち合わせのための時間がかかりました。
- ・ 日程等の調節が難しく，アシスタントとして学校に来られない月がありました。

平成 28 年度 理科観察実験支援事業 参加者名簿

| | 学校名 | 学年 | 学級数 | 時数 | | 希望 人数 | 支援員の所属・学年 |
|---|-------|----|-----|----------|-----|----------|--------------|
| | | | | (1学級あたり) | 総時数 | | |
| 1 | 渡里小学校 | 5年 | 3 | 30 | 90 | 1 | 教育学部・4年・理科選修 |
| | | 6年 | 3 | 30 | 90 | 1 | 教育学部・4年・理科選修 |
| 2 | 石川小学校 | 5年 | 2 | 30 | 60 | 1 | 教育学部・4年・理科選修 |
| | | 6年 | 3 | 30 | 90 | 1 | 教育学部・4年・理科選修 |
| 3 | 飯富小学校 | 5年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・4年・理科選修 |
| | | 6年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・3年・人間環境 |
| 4 | 大場小学校 | 5年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・3年・理科選修 |
| | | 6年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・3年・理科選修 |
| 5 | 鯉淵小学校 | 5年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・3年・理科選修 |
| | | 6年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 教育学部・3年・理科選修 |
| 6 | 飯富中学校 | 1年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 理学部・3年・化学 |
| | | 2年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 理学部・4年・化学 |
| | | 3年 | 1 | 30 | 30 | 1 | 理学部・4年・化学 |

2-4 附属学校園と教育学部の連携研究

附属学校園と教育学部がしっかりと連携を図りながら教育研究を推進し、その成果を地域の教育現場にも発信していくことで地域の教育力向上に貢献することが、より一層求められています。茨城大学教育学部は2003年度より附属学校委員会を設置し、附属学校園と教育学部の情報交換と連携に努めてきました。2010年11月には、教育学部研究連携推進委員会を立ち上げ、連携研究の体制を整備するとともに、よりよい連携のあり方を模索しながら実践を重ねてきています。

(規則についてはP. □参照のこと)

主な活動として、連携研究を推進するための研究補助制度「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の運用、連携研究の実施について報告します。

1. 「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」制度と採択リスト

今年度も、附属学校と教育学部の教員の連携促進するために「実践センター・学部附属学校連携研究費補助金」の公募を行いました。教育研究連携推進委員会で内容を審査し、4件（1件あたり5万円の補助）を採択としました。その内容については、次頁以降に掲載します。（過去3年間で採択された連携研究についても掲載）

2. 連携研究の把握

2010年度以来、教育学部研究連携推進委員会規則に基づき、附属学校と教育学部との連携研究は活発に行われています。教育実践総合センターでは、双方の意向を考慮し、よりよい形で実施できるようにと連絡調整に努めています。内容的には、(1)大学・学部の教育研究への協力、(2)大学・学部と附属学校の共同研究、(3)学生の学修に関わる協力があります。

(1) 大学・学部の教育研究への協力

大学・学部教員が研究の一環として行う調査や研究授業などに、附属学校が協力しています。学校現場をフィールドとした教育研究は、理論と実践を結びつけるためには欠かせない連携研究の場となっています。

(2) 大学・学部と附属学校の共同研究

附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、研究発表会を実施しています。そこでは、大学・学部と附属学校との共同研究の一端が公開されます。研究の方向性や教材研究、授業づくりなどについて共同に研究していけることは、それぞれの持つ力を出し合い、高め合う貴重な場となっています。

(3) 学生の学修に関わる協力

各教科の教育法や内容研究などの教職に関わる学修において、その実践研究の場として附属学校を活用しています。実際の授業を参観したり、授業記録を基に話し合ったりすることは、学生にとって貴重な学びとなっています。

平成26年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

| 研究代表者 | 連携先 | 研究組織 | 研究 |
|-------|----------------|--|---------------------------------------|
| 廣木 聡 | 附属特別支援学校 | 附属特別支援学校 廣木 聡 附属特別支援学校 小学部教員 国語教育 鈴木 一史 | 「児童生徒の心的安定、人間関係の深まり」のための ICT 活用モデルの開発 |
| 佐藤裕紀子 | 附属小学校 附属中学校 | 家庭教育 佐藤裕紀子・塩谷敬子(渡里小学校・現職派遣) 附属中 高崎 昌己 附属小 中山 香理 | 家庭科の基礎・基本の定着を目指す施設分離型小中一貫教育の提案 |
| 猪井新一 | 附属小学校 | 英語教育 猪井 新一・齋藤 英敏 附属小学校 (1年)小島貴志・佐々木恵美子(2年)飯村高志 (3年)桔梗谷 美代子 (4年)湯瀬 英寿 (5年)比佐 中 (6年)栗原 裕弥 | 小学校外国語活動をより推進していくための実践的研究 |
| 工藤雄司 | 附属中学校 | 技術教育 工藤 雄司 附属中学校 山崎 修 技術職員 小祝 達朗 | 「技術科における巧緻性を育む新素材を用いた加工学習教材の開発」 |

平成 27 年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

| 研究代表者 | 連携先 | 研究組織 | 研究タイトル |
|--------|--------------|---|--|
| 高野 恵美子 | 附属幼稚園 | 障害児教育 新井 英靖 理科教育教室 大辻 永 附属幼稚園 高野 恵美子 | 幼児が自然に対する認識を深める保育活動の研究 |
| 杉本 憲子 | 附属小学校 | 附属小学校 野村 仁、安田 和人、新妻 宏章 学校教育教室 生越 達、三輪 壽二、杉本 憲子 | 児童相互の学び合いを生かした授業のあり方に関する研究 —附属小学校・複式学級の授業における学び合いの場の研究を通して— |
| 遠藤 貴則 | 附属特別支援 学校 | 附属特別支援 遠藤 貴則、滑川 昭、廣木 聡 学校臨床 金丸 隆太 | 配慮が必要な児童生徒が在籍する小中学校への支援モデルの開発 |
| 齋藤 英敏 | 附属中学校 | 英語教育教室 齋藤 英敏、猪井 新一 附属中学校 小沢 浩、増田 浩一、小松崎 美重 | 英語ディスカッション指導方法の検討 |
| 青柳 直子 | 附属幼稚園 | 教育保健教室 青柳 直子 保健体育教室 渡邊將司 附属幼稚園 高橋 雅子 | 幼児の健康的な生活習慣の形成を目指す睡眠改善プログラムの提案 |

平成 28 年度 実践センター・学部附属学校連携研究費補助金 採択リスト

| 研究代表者 | 連携先 | 研究組織 | | 研究タイトル |
|-------|----------|-----------------------------------|--------------------------------|---|
| 榊 守 | 附属特別支援学校 | 附属特別支援 技術教育専修 1 年 技術教育教室 | 廣木 聡 平山 清一 榊 守 | Windows パソコンの USB 端子に接続しマウスのクリック操作ができるスイッチボックスの開発 |
| 鳩山 裕子 | 附属特別支援学校 | 附属特別支援 美術教育教室 | 江間留美子、鈴木 康弘、廣木 聡 片口 直樹、島 剛 | 特別支援教育におけるアクティブ・ラーニング時代の表現力育成の実践研究 |
| 青柳 直子 | 附属幼稚園 | 教育保健教室 家政教育教室 附属幼稚園 | 青柳 直子 石島 恵美子 海老澤 紫(養護教諭) | 幼児の望ましい生活リズムの定着に向けた取組み |
| 工藤 雄司 | 附属中学校 | 技術教育 附属中学校 技術職員 | 工藤 雄司 滝本 穰治 小祝 達朗 | 技術科におけるガイダンスの内容としての加工実習教材の開発 |

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 教育学部 技術教育教室
氏名 榎 守

研究タイトル Windows パソコンの USB 端子に接続しマウスのクリック操作ができる
スイッチボックスの開発

研究組織 (所属・氏名)
教育学部 教育学研究科 技術教育専修 1 年 平沼清一
附属特別支援学校 副校長 樋木 治
附属特別支援学校 副教務主任兼学習指導部長 廣木 聡
附属特別支援学校 教諭 武田一直
教育学部 技術教育教室 榎 守

研究の成果

Windows パソコンのマウスのクリック操作が困難な児童・生徒を対象に、外部スイッチを用いることでクリックと同様の操作を行うことができる外付けスイッチを附属特別支援学校と共同で開発した。開発したスイッチは Windows パソコンであれば機種や OS バージョンに依存せず使用できる。この外部スイッチは生徒によるプレゼンテーションや算数・数学の学習などに有用である。

装置の構成を図 1 に示す。パソコンと外付けスイッチは USB ミニケーブルを介して接続される。図 2 に開発した外付けスイッチの回路図を示す。外部スイッチと PC とを接続するために汎用 REIVVE USB (ビット・トレード・ワン) インタフェースを用い、スイッチを押した際に発生するチャタリングを防止する回路を追加した。図 3 a に作成した実装用基板、図 3 b にスイッチボックス内部、図 3 c に装置の外観を示す。装置筐体にはアルミケース OS44-12-16BX (タカチ)、照光式押ボタンには児童生徒が容易に押せるように LED 照明付き大型スイッチ OBSA 100UMQ-B-1F・LED5V-W (三和電子) を用いた。

現在、特別支援学校において実際に授業で使用し、QUEST 福祉用具満足度評価を行っているところである。

補助金の用途

φ100 大型 LED 付スイッチ, 筐体, USB インタフェース部品, 基板作成用エンドミル, 生基板, FET およびロジック等電子回路部品の購入

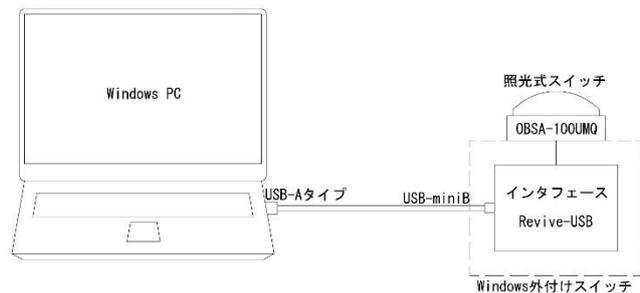


図 1 PC と外付けスイッチの接続構成図

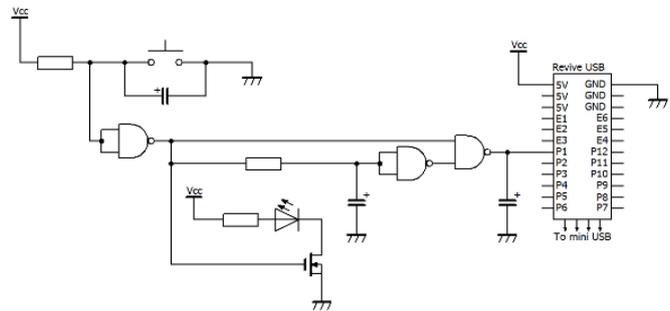
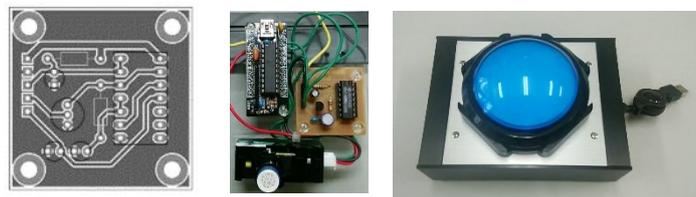


図 2 外付けスイッチの回路図



a 実装用基板 b 内部写真 c 外観

図 3 スイッチ内部と外観

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 附属特別支援学校
氏名 鳩山裕子

研究タイトル

特別支援教育におけるアクティブ・ラーニング時代の表現力育成の実践研究

研究組織 (所属・氏名)

附属特別支援学校 鳩山裕子
附属特別支援学校 江間留美子
附属特別支援学校 鈴木康弘
附属特別支援学校 廣木 聡
美術選修 片口直樹
美術選修 島 剛

研究の成果

「アクティブ・ラーニング」の考え方を踏まえ、美術の教育研究を強化し、児童生徒の表現力が充実するような実践研究を行った。美術科の学生が企画し、児童生徒が自己を解放し自ら取り組むような制作活動を実践した(11/15, 16)。

実践の開始年である今年度は、小学部児童及び職員と茨城大学教育学部美術科の学生とのコラボレーション作品「まきものがたり」を制作した。日本文化の絵画形式の1つである絵巻物からイメージを広げ作品を制作した。巻物は最後まで開かれておらず、巻かれたままで終わっている。これは「今回のコラボレーションだけで終わらず今後も楽しい関係が続いて欲しい。制作に関わったすべての人にステキな未来が広がって欲しい。」という美術科の学生の願いが込められている。制作においては、まず、子どもたちと学生が手で彩色したり混色したりして下地を作った。色々な色の混じり合いは、自分だけでなく様々な人と一緒に影響を与え合いながら生きていることを表現した。共生していることを作品づくりに携わった皆に感じて欲しいという願いが込められている。次に、皆で足に白い塗料を付けて下地の上を歩いた。これは様々な人々との関わりで構成される世界を一步一步力強く歩いていくことを表現している。

児童と美術科学生が主体的に制作に取り組んだこの実践を通して、特別支援教育におけるアクティブ・ラーニング時代の表現力育成について有益な示唆を得られた。

次年度は、鑑賞もテーマの一つとして取り上げ、さらなる児童生徒の表現力向上の実践研究を行う。



補助金の使途

画材、ブルーシート等

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 教育学部教育保健教室
氏名 青柳直子

研究タイトル
幼児の望ましい生活リズムの定着に向けた取組み

研究組織 (所属・氏名)
教育保健教室・青柳直子
家政教育教室・石島恵美子
附属幼稚園養護教諭・海老澤 紫

研究の成果

【1】研究の背景・目的

幼児期における不規則な睡眠習慣は様々な心身の不調をもたらす。特に休日や長期休みには朝寝坊や夜更かしが増え、不規則な生活リズムになりやすい。そこで本研究では、附属幼稚園と連携し、園児とその保護者を対象として、睡眠、食事、排泄や身体活動等の生活習慣と心身の健康度について長期休みを含めた調査を行い、実態に基づいて規則的な生活リズムの形成・実践に向けた介入の手がかりを得ることを目的とした。

【2】研究方法

附属幼稚園児 94 名とその保護者を対象として、以下の調査を実施した。

1) 質問紙調査：生活習慣および心身の健康状況について、自記式（保護者）にて回答を得た。

2) 身体活動量調査：対象は年中・年長児とし、小型活動量計を用いて連続 14 日間測定した。

【3】得られた研究成果

長期休み期間の特徴として、登園期間よりも起床時刻や就寝時刻が遅延する様子がみられた。また、日中の身体活動（外遊び）が減少し、そのため午睡が減ったり、夜間の寝付きが悪くなったりする様子がうかがえた。この他、メディア視聴やゲームで遊ぶ時間の増加、排便の不規則さや食事量の減少等を指摘している保護者が多くみられた。

本研究の成果については、保護者や保育者へ報告し、規則的な睡眠習慣を基盤とする望ましい生活習慣の形成のために活用した。今後は、子育て講座やコミュニティ広場等でも本成果を広く活用し、幼児の規則的な生活リズムの定着に向けた啓発活動を展開・推進させていく予定である。

補助金の使途

- ・ 用紙／印刷関連費（調査票、保護者用リーフレット等）
- ・ 学会参加費（成果発表）
- ・ 図書費（調査票作成関連）

実践センター・学部附属連携研究費補助金 報告書

研究代表者 所属 技術教育
氏名 工藤雄司

研究タイトル
「技術科におけるガイダンスの内容としての加工学習教材の開発」

研究組織 (所属・氏名) 連携先 : 附属中学校
 技術教育 ・ 工藤雄司
 附属中学校 ・ 滝本穰治
 技術職員 ・ 小祝達朗

研究の成果

中学校「技術・家庭科」技術分野の内容『A 材料と加工に関する技術』の『(1)生活や産業の中で利用されている技術』では、技術科において3年間で学習する内容を俯瞰する、いわゆるガイダンスの内容を扱うことが求められる。材料と加工に関する技術に直接関わる内容は『(2)材料と加工法』からである。この中で材料を加工する方法の一例としてノコギリによる切断を取り上げることが多い。ガイダンスの内容を取り上げた後なので、ここに使用できる時間は多くはない。加工法に関しては、座学で行うか、実習を行った場合でも木片を切断してみる程度で終わることも多い。しかし、生活や産業の中で利用されている技術を利用することで容易に切断が体験できて、なおかつ製品として利用できる加工学習教材があれば、材料と加工に関する技術の学びを始める段階の内容としては十分な効果をもつと考えられる。

本研究では、平成26年度の茨城大学教育学部附属中学校公開授業研究会にて附属中学校・山崎修先生との共同研究で使用した新素材ケミカルウッドを使用した。ケミカルウッドは、加工用の材料としては、切断し易く斜めに切断することも容易である。この材料に加えジグを使用した加工を行うようにすることで、容易に精度の良い加工学習が行える教材を開発した。ジグとは、製作の際に加工が容易になるよう用いられる「ガイドとなる形状の部材」のことである。ここでは、両刃のこぎりで90度と45度を容易に切断できる主に2×4木材の加工に使われるジグを用いた。

本研究における開発教材の有効性の検証のため、試行授業を実施した。また、試行授業の前後に4件法による質問紙調査を行った。「ケミカルウッドの性質が説明できるか」、「ケミカルウッドを使ってものづくりをしてみたいか」との質問項目の平均値が有意に上昇し、t検定では1%水準の有意差が認められた。したがって、開発した教材は有効であると考えられる。

実施日：平成29年1月30日(月)4校時 実施校：附属中学校 対象学級：1年1組38名

指導者：附属中学校技術科 滝本穰治教諭 実施教室：技術室

補助金の使途 (簡単に記入してください。)

試行授業用ケミカルウッド, ジグ作成用部材, 加工工具, 接合材料の購入費

平成 26 年度 学部・附属学校の連携の届 一覧

| | 代表者 | 実施項目 | 連携先 | 目的・内容など | 期日 | 参加者 |
|----|------------------|------------|-----|--|-------------------------|--|
| 1 | 渡邊将司 保健体育 | 研究 | 幼 | 附属幼稚園児の身体活動量および体力を調査する | H26.6～ H26.11.6 | 附属幼稚園長 村山 朝子 附属幼稚園副園長 塩田 智代 |
| 2 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する。 | H26.6.5～ H27.3.31 | 特別支援教育 4 年 1 名 |
| 3 | 大辻 永 理科教育 | 授業実践 | 小 | 附属小学校 5 年生 3 クラスに対し、「ひびきの時間」において出前授業を行う。 | H26.11.14 | 附属小学校(5 年)海老名 育子 |
| 4 | 佐々木 忠之 情報文化教室 | 授業実践 | 小 | 図工教材製作における技術的支援 | H26.9～ H27.3 | 技術教育教室 工藤雄司・野崎英明 附属小学校 安田和人 |
| 5 | 高橋 文子 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 身体性・共同性を重視した中学校の陶芸制作・鑑賞の題材開発 | H.26.10.5～ H26.12.16 | 美術教育教室 島 剛 附属中 3 年生 157 名 |
| 6 | 佐藤 隆 附属中学校 | 研究 | 中 | 教育の新領域として、「ips 細胞を用いた新しい再生医療社会を真に理解し迎えるための教育プラン」の茨城大学モデルをつくり全国に発信する。 | H26.4.1～ H27.3.31 | 国語教育 鈴木一史 理科教育 大辻永 教育保健 瀧澤利行 廣原紀恵 石原研治 人間環境 郡司晴元 |
| 7 | 増田 浩一 附属中学校 | 授業実践 | 中 | お互いに自分の住んでいる地域・文化を紹介しよう | H26.10.15 H26.10.22 | 交換留学生 7 名 |
| 8 | 増田 浩一 附属中学校 | 授業実践 | 中 | パキスタンからの留学生との授業 英作文のアドバイス、スピーチ | H26.12.1～ H26.12.24 | 教育研修生 |
| 9 | 増田 浩一 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 附属中学生の英語授業において Team Teaching の実践 | H27.2.10 | 教科教育専攻 英語教育院生 |
| 10 | 船山 知暁 附属中学校 | 研修 | 中 | 平成 26 年度理科授業づくり研究会「放射線研修」附属中学校・茨城大学・公立学校の教員で、授業をよりよくするために研修を行う | H26.5.10 | 理科教育 大辻永 山本勝博 実践センター 五島浩一 附中教員 4 名 院生 4 名 |
| 11 | 田中 正彦 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 大学 1 年生に対して授業を公開し、中学校の社会科授業の展開、指導案についてなどを解説する。 | H27.2 | 社会科教育専修 1 年次 25 名 |
| 12 | 田中 正彦 附属中学校 | その他 | 中 | 大学 2 年生対象に教育実習についての事前指導。授業の作り方。指導案の書き方などを講義する。 | H26.7.18～ H26.7.25 | 社会科教育専修 2 年次 20 名 |
| 13 | 田中 正彦 附属中学校 | 研究 | 中 | 附属中学校公開研究会にむけての授業、指導案検討 | H26.10～ H26.11 | 社会科教育 村山朝子 附中教員 2 名 |
| 14 | 開田 晃央 附属中学校 | 研究 | 中 | 中学校国語科の研究推進・公開授業の授業づくり研究等 | H26.4.1～ H27.3.31 | 国語教育 鈴木一史 附中教員 1 名 |
| 15 | 開田 晃央 附属中学校 | 研究 授業実践 | 中 | 授業の実践力を向上させる。3 か月に 2 度授業実践、教材研究を持ち寄り、発表する。 | H26.4.1～ H27.3.31 | 国語教育 鈴木一史 附中教員 1 名 公立学校教諭 10 名 |
| 16 | 高橋 文子 附属中学校 | 授業見学 | 中 | 美術専修授業「美術教育授業研究Ⅲ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため | H26.10.23 | 情報文化 島田裕之 美術専修 2 年生 14 名 |
| 17 | 高橋 文子 附属中学校 | 授業見学 | 中 | 美術専修授業「美術教育授業研究Ⅰ」において、美術教育を目指す意識向上と授業研究のため | H26.12.9 | 情報文化 小泉晋弥 美術専修 1 年生 10 名 |
| 18 | 片山 美千恵 附属中学校 | 研究 | 中 | 四附属学校園 養護教諭共同研究「養護」に関する質的研究 | H26.4.1～ H27.3 末日 | 教育保健 齊藤ふくみ 四附属学校園養護教諭 4 名 |

| | | | | | | |
|----|-------------------|---------------|---|---|------------------------|--|
| 19 | 椎名幸由紀 附属特別支援学校 | 実践研究 | 特 | 小学部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究 | H.26.4.1～ H27.3.31 | 障害児教育教室 勝二博亮 |
| 20 | 小松大介 附属特別支援学校 | 実践研究 | 特 | 中学部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究 | H.26.4.1～ H27.3.31 | 障害児教育教室 新井英靖 |
| 21 | 茂木武啓 附属特別支援学校 | 実践研究 | 特 | 高等部における「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の実践研究 | H.26.4.1～ H27.3.31 | 障害児教育教室 東條吉邦 |
| 22 | 渡邊鮎美 附属特別支援学校 | 実践研究 公開研究会 | 特 | 「感じる・考える・伝え合う 授業づくり」 体育・保健体育での実践研究と成果の公開 | H.26.4.1～ H27.3.31 | 体育教室 渡邊将司 こども教育宝仙大学 松原豊 県内外の教員 140 名 |
| 23 | 小室美歌子 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 人間関係を深めるムーブメントの実践研究と成果の公開 | H.26.8.5～6 | 障害児教育教室 新井英靖 教員 10 名参加 |
| 24 | 長瀬敦 附属特別支援学校 | 実践研究 | 特 | 知的障害児教育における ICT 機器活用の実践研究 | H.26.5.1～ H27.3.31 | 国語教室 鈴木一史 |
| 25 | 椎名幸由紀 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 幼稚園、高等学校における教育相談に関する実践研究と成果の公開 | H.26.8.12 H.26.8.29 | 学校臨床心理 金丸隆太 幼稚園教員 25 名 高等学校教員 15 名 |
| 26 | 廣木聡 附属特別支援学校 | 実践研究 研修会 | 特 | 小中学校特別支援学級における ICT 機器活用の実践研究と成果の公開 | H.26.6.1～ H27.3.31 | 学校臨床心理 金丸隆太 県内教員 90 名 |
| 27 | 茂木武啓 附属特別支援学校 | 実践研究 | 特 | 知的障害児の準備運動に関する実践研究と成果の公開 | H.26.5.1～ H27.3.31 | 体育教室 渡邊将司 |
| 28 | 和田美穂 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 知的障害児の国語教育に関する考察と成果の公開 | H26.7.23 | 国語教室 鈴木一史 県内教員 40 名参加 |
| 29 | 茂木武啓 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 知的障害児の体育に関する考察と成果の公開 | H26.7.23 | 体育教室 渡邊将司 附属特別支援学校教員 10 名 県内教員 20 名 |
| 30 | 勝二博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | 知的障害児の肥満に関する検討 | H26.10.1～ H27.3.31 | 特別専攻科 学生 1 名 特別支援学校 内田清香 |
| 31 | 勝二博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | 知的障害児の柔軟性に関する調査研究 | H26.10.1～ H27.3.31 | 特別専攻科 学生 1 名 特別支援学校 藤田宏樹 茂木武啓 |
| 32 | 東條吉邦 障害児教育 | 研究 | 特 | 障害児における自己の状態予測に関する研究 | H26.6.5～ H27.3.31 | 特別支援教育 4 年 学生 1 名 |
| 33 | 勝二博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | ダウン症児の発話明瞭度について、ひらがな文字の習得と発話明瞭度の関連について検討する | H26.6.5～ H27.3.31 | 特別支援教育 4 年 学生 1 名 |
| 34 | 廣木聡 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 「教科指導における教材・教具開発のポイント」公開講座 | H.26.5.7 | 障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員 30 名 近隣学校園の教員 20 名 |
| 35 | 渡邊鮎美 附属特別支援学校 | 公開講座 | 特 | 「エピソード記録を通して子どもを質的に見つめる」公開講座 | H.26.6.4 | 障害児教育教室 新井英靖 附属特別支援学校教員 30 名 近隣学校園の教員 20 名 |
| 36 | 鈴木 一史 国語教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 37 | 村山 朝子 社会教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 38 | 根本 博 数学教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 39 | 山本 勝博 理科教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 40 | 田中 健次 音楽教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 1 名 |

| | | | | | | |
|----|---------------------------|-------------|-----|--|-----------------------|---|
| 41 | 金子 一夫 美術教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 42 | 日下 裕弘 保健体育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 2 名 |
| 43 | 工藤 雄司 技術教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 44 | 野中 美津枝 家庭教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 45 | 齋藤 英敏 英語教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 46 | 生越 達 青柳 路子 学校教育(道徳) | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 5 名 |
| 47 | 杉本 憲子 学校教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 5 名 |
| 48 | 小川 哲哉 学校教育 | 研究 授業 実践 | 中 | 平成 26 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H26.11.4 H26.11.29 | 附中教員 6 名 |
| 49 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 授業実践 | 幼 | 柔道体験により、日本の文化に触れ、身体 を意識しながら動かしたり、礼儀を学ぶ 機 会とする。 | H26.5.19 ～6.16 | 保健体育 尾形敬史(講師) 附幼5歳児と保護者 |
| 50 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 事例研究 | 幼 | 保育参観、事例検討会等を通して支援の 方向性の検討 | H26.5.13 ～H26.7.7 | 障害児教育 新井英靖(講師) 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 附幼全教諭 |
| 51 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 研修会 | 幼 | 遊びやすい保育環境やエピソード記録の 書き方についての研修 | H26.4.30 H26.7.25 | 障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭 |
| 52 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 研究会 | 幼 | 講話 「子どもの豊かな活動を生み出す環境づくり」 | H27.2.10 | 障害児教育 新井英靖(講師) 研究会出席者約 200 名 附幼全 教諭 |
| 53 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 研究会 | 幼 | 「子どもと共に遊びをつくる 一環境を見つめ直して」分科会の司会・ グループ協議のまとめ | H27.2.10 | 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 研究会出席者約 200 名 附幼全 教諭 |
| 54 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育て講座 「思春期を見据えた幼児期の課題」 | H26.6.30 | 教育学部長 生越 達(講師) 附幼全保護者 |
| 55 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育て講座「造形遊びから造形活動へ～ 造形ワークショップに見る幼児の創造性」 | H26.9.19 | 美術教育 片口直樹(講師) 附幼全保護者 |
| 56 | 村山 朝子 附属幼稚園 | 講座 | 幼 子 | 子育て講座 「学びの芽をはぐむ自然体験 | H27.2.2 | 教育実践総合センター 五島浩一(講師) 附幼全保護者 |
| 57 | 木村 勝彦 社会科教育 | 授業参観 | 小 | 「社会科教育学入門」の一環として社会科 授業の参観 | H27.2.19 | 社会科選修 1 年次 24 名 |
| 58 | 橋浦 洋志 昌子佳広 国語教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校国語科教諭 |

| | | | | | | |
|----|------------------------|------|---|------------------------------------|-----------|----------------------------|
| 59 | 村山朝子 木村勝彦 社会科教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校社会科教諭 |
| 60 | 根本博 数学教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校算数科教諭 |
| 61 | 大辻 永 理科教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校理科教諭 |
| 62 | 田中健次 音楽教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校音楽科教諭 |
| 63 | 大辻 永 理科教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校理科教諭 |
| 64 | 田中健次 音楽教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校音楽科教諭 |
| 65 | 向野康江 美術教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校図画工作科教諭 |
| 66 | 石島恵美子 家政教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校家庭科教諭 |
| 67 | 日下裕弘 大津展子 保健体育教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校体育科教諭 |
| 68 | 猪井新一 英語教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校Eタイム部員教諭 |
| 69 | 生越達 青柳路子 学校教育 | 研究 | 小 | 公開授業研究会講師 | H27.1.30 | 附属小学校こころの時間研究部員 |
| 70 | 島田裕之 美術教育 | 授業見学 | 小 | 美術教育授業演習Ⅲ 授業参観 | H26.12.11 | 附属小学校 安田和人 美術選修2年 14名 |
| 71 | 向野康江 美術教育 | 授業見学 | 小 | 美術教育授業研究Ⅰ 授業参観 | H27.2.4 | 附属小学校 高野敦史 美術選修1年 13名 |
| 72 | 野中美津枝 家政教育 | 実践研究 | 小 | 卒論の研究テーマで「デジタル教材の授業 究」を実施するため | H26.10.15 | 附属小学校 中山香里 家政選修4年 田中菜帆 |
| 73 | 橋浦洋志 国語教育 | 授業実践 | 小 | 「ことばの力」実践演習 ことばの力について実践を通して考察する | H27.1.21 | 学校教員養成課程・養護教諭養成課程 2年生全員 |
| 74 | 松本稔子 附属小学校 | 講師 | 小 | 「音楽集会」指導講評 | H27.2.16 | 音楽教育 谷川佳幸 |

平成 27 年度 学部・附属学校の連携の届 一覧

| | 代表者 | 実施項目 | 連携先 | 目的・内容など | 期日 | 参加者 |
|----|-------------------|--------------------|-----|---|-----------------------|---|
| 1 | 佐藤 裕紀子 家政教育 | 研究 授業実践 実態調査 | 小・中 | 家庭科における基礎・基本の定着をはかるための具体的な手立てとして学習カルテを考案し、その効果を検証すること。 | H26.4.1～ H28.3.31 | 家政教育 佐藤 裕紀子 公立学校教員 1名 附属小教員 1名 附属中教員 1名 |
| 2 | 廣木 聡 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域のセンター的役割、授業スキルの向上 講話:「国語のアセスメントと授業づくりについて」 「算数・数学のアセスメントと授業づくりについて」 | H27.4.6～ H27.4.9 | 障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 各 30名 県内の幼稚園、小学校、中学校、 特別支援学校教員 各約 5名 |
| 3 | 片山 美千恵 附属中学校 | その他 | 中 | 定期健康診断における補助 | H27.4.11 H27.4.12 | 養護教諭養成課程 4年次 2名 |
| 4 | 岸 良範 臨床心理 | 教育相談 | 中 | 大学院生の実施研修 | H27.4～ H28.3 | 大学院生10名 (前期5, 後期5) |
| 5 | 佐々木 忠之 情報文化教室 | その他 | 小 | 教師に親しみやすくするツール? 似顔絵スタンプ おびシールの製作 | H27.4～ | 附属小学校教員 7名 |
| 6 | 大西 有 技術教育 | 研究 事業 実践 | 中 | 附属中学校技術科の共同研究者として、技術教育の充実向上に寄与するため。 | H27.4～ H28.3 | 技術教育 大西 有 |
| 7 | 小松 大介 附属特別支援学校 | 研究 授業実践 | 特 | 授業スキルの向上、本校の研究活動の公開、 地域のセンター的役割 内容:テーマ「感じる 考える 伝え合う 授業づくり(課題学習)」授業実践、指導助言、授業についての研修会実施、公開研究会開催(12/12) | H27.4～ H27.12 | 障害児教育 東條 吉邦 勝二 博亮 新井 英靖 附属特別支援学校教員 30名 県内の幼稚園、小学校、中学校、 特別支援学校教員他 約 200名 |
| 8 | 田中 正彦 附属中学校 | 実態調査 | 中 | 卒論のための調査 学生の卒論に必要なデータの収集 | H27.4～ H28.3 | 社会科教育 学生4年生 |
| 9 | 田中 正彦 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 学生の授業力向上 授業参観し、その後授業についての協議 | H27.4～ H28.3 | 社会科教育 学生1年生 |
| 10 | 齋藤 英敏 英語教育 | 研究 | 中 | 英語ディスカッション指導の検討 授業の様子を観察し、指導法について検討 | H27.4～ H28.3 | 英語科教育 2名 附 中教員 3名 |
| 11 | 山本 勝博 理科教育 | 授業実践 | 中 | 総合的学習の時間の実演 水戸黒木染 め | H27.4～12 4回 | 補助 院生 4名 |
| 12 | 鈴木 一史 国語教育 | 研究 | 中 | 授業づくり研究会 共同研究 | H27.4～ 毎月1回 | 国語科教育 附中教員 3名他 |
| 13 | 小泉 晋弥 附属幼稚園 | 授業実践 | 幼 | 柔道体験を通して、日本の文化に触れ、身体を意識しながら動かしたり、礼儀を学んだりする機会とする | H27.5.18 ～H27.6.15 | 保健体育 尾形敬史(講師) 附幼5歳児 |
| 14 | 高野 恵美子 附属幼稚園 | 事例研究 | 幼 | 保育参観、保育カンファレンス等を通して幼児理解を深める | H27.5.26 ～H27.7.8 | 障害児教育 新井英靖 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 附幼全教諭 |
| 15 | 根本 博 数学教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 算数科教育法特講 | H27.5.19・26 | 附属小学校 飯村高志 数学教育選修2年 |
| 16 | 田中 健次 音楽教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 音楽科教育法特講 | H27.5.19・27 | 附属小学校 清水匠 音楽教育選修3年 |
| 17 | 渡邊 将司 保健体育 | 事業実践 実態調査 | 幼 | 幼児の日常の身体活動量を調査するとともに、 鬼遊びの運動強度と継続的介入効果を検証する。 | H27.5～ H28.2 | 教育保健 青柳 直子 幼稚園教員 3名 |
| 18 | 遠藤 貴則 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域のセンター的役割 内容:近隣小学校で授業 参観及び指導助言 | H27.5～ H28.1 | 附属特別支援学校 遠藤 貴則 滑川 昭 学校臨床心理 金丸 隆太 茨城町立長岡第二小学校教員 15名 |
| 19 | 高野 恵美子 附属幼稚園 | 研修会 | 幼 | エピソード記述方法についての研修 | H27.6.12 | 障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭 |

| | | | | | | |
|----|-------------------|-------------|--------|---|-----------------------|---|
| 20 | 大西 有 技術教育 | 研究 事業 実践 | 幼 | ゼミ所属学生の問題解決能力を育成するため | H27.6.16 H27.10.20 | 技術教育 大西 有 4 年 2 名、3 年 4 名 |
| 21 | 小泉晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育て講座 「現代を生きる子どもの発達課題 どのような子育てが求められるのか」 | H27.6.29 | 学校教育 丸山広人 附幼全保護者 |
| 22 | 金子 一夫 美術教育 | 研究 | 中 | 茨城大学教育学部附属中学校授業づくり研究会美術 茨城大学・附属中・公私立学校教員による美術教育研究推進 | H27.7.5 | 美術教育 金子 一夫 小泉 晋弥 附属中 1 名 他大学教員 1 名 公私立学校教員 3 名 院生 2 名 |
| 23 | 杉本 憲子 学校教育 | 研究 授業 実践 | 小 | 児童の学び合いがどのように成立するか、またそれをより充実させるためにはどのような授業展開、指導方法等が求められるか等について、附属小学校の複式学級での授業研究を通して検討する。 | H27.6～ H28.3.31 | 学校教育 生越 達 三輪 壽二 杉本 憲子 附属小教員 3 名 |
| 24 | 青柳 直子 教育保健 | 実態調査 | 幼 | 本研究では、園児と保護者を対象として、睡眠や食事等の生活習慣、心身の健康度、身体活動について調査を行い、その実態に基づき、生活習慣の改善のための介入の手がかりを得ることを目的とする。 | H27.6～ H28.3.31 | 保健体育 渡邊 将司 附属幼稚園教諭 1 名 |
| 25 | 田中 健次 音楽教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導音楽科教育法特講 | H27.7.14 | 附属小学校 松本稔子 音楽教育選修3年 |
| 26 | 廣木 聡 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域のセンター的役割、授業スキルの向上 内容:オープンスクールでの講話 「知的障害児の国語と算数の授業づくり」 | H27.7.22 | 障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 30 名 県内外の幼稚園、小学校、中学校、 高等学校、特別支援学校教員、 施設職員、保護者等 約 240 人 |
| 27 | 細川 美由紀 障害児教育 | 研究 | 幼 | 幼児期における他者感情理解の発達について検討する | H27.7.24～ H28.3.31 | 障害児教育 細川 美由紀 特別支援教育 4 年 1 名 |
| 28 | 向野 康江 美術教育 | 授業実践 | 小 中 | 教育実習のための予備訓練のため | H27.8.1～ H28.1.31 | 附属小・中学校教員 各 1 名 美術選修の 2 年生 |
| 29 | 向野 康江 美術教育 | その他 | 小 中 | 事業実践場面分析演習における教育向上を図るため、附属小・中教員による指導。 | H27.8.1～ H28.2.4 | 美術教育選修 2 年生 15 名 附属小教員 1 名 附属中教員 1 |
| 30 | 菊池 美穂 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域の幼児と保護者に向けてセンター的役割、指導スキルの向上 幼児向け公開講座「ムーブメント」の実施 | H27.8.5 | 障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 10 名 近隣幼稚園、保育園の園児及び 保護者 10 ペア |
| 31 | 滑川 昭 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域の幼児と保護者に向けてセンター的役割、指導スキルの向上 内容:小中学校教員向けグループワーク研修会 | H27.8.6 | 学校臨床心理 正保 春彦 附属特別支援学校教員 10 名 近隣幼稚園、小学校、中学校の教員 約 20 |
| 32 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | 知的障害者の走動作に関する特徴を明らかにする。 | H27.9.4～ H28.1.31 | 障害児教育 勝二 博亮 障害児専修 1 名 |
| 33 | 小泉晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育て講座 「子どもの健康と生活リズムとのかかわり」 | H27.9.25 | 教育保健 青柳直子 附幼全保護者 |
| 34 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 幼 特 | 紙芝居を見ている際の情報入手過程を視覚検索の面から検討することを目的とする。幼児についてはその発達の変化を、知的障害児については、健常発達との比較を行う。 | H27.9.30～ H28.3.31 | 障害児教育 勝二 博亮 障害児専修 2 年 1 名 |
| 35 | 廣木 聡 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 地域のセンター的役割 内容:近隣小中学校で配慮が必要な児童生徒への ICT 活用実践 | H27.9～ H28.1 | 附属特別支援学校 廣木 聡 学校臨床心理 金丸 隆太 茨城県水戸教育事務所 水戸市立石川小学校教員 水戸市立第一中学校教員 |
| 36 | 齊藤 昌晴 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 特別支援教育コース 卒業研究協力 内容:驚きを手がかりとした障害児の誤信念理解の促進について | H27.9～ H27.11 | 障害児教育 東條 吉邦 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名 |

| | | | | | | |
|----|---------------------|------|---|--|--------------------------------|---|
| 37 | 近藤 祥子 附属幼稚園 | 研修会 | 幼 | 気になる幼児についての事例検討 | H27.10.6 | 障害児教育 新井英靖(講師) 附幼全教諭 |
| 38 | 杉本 憲子 学校教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 生活科教育法研究 | H27.10.20-27 H27.11.24-12.1 | 附属小学校 仲田美貴子 教育学部授業「生活科教育法研究」受講者 |
| 39 | 杉本 憲子 学校教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 生活科教育法研究 | H27.11.10-17 H27.12.8-15 | 附属小学校 飯村高志 教育学部授業「生活科教育法研究」受講者 |
| 40 | 金子 一夫 美術教育 | 研究 | 中 | 茨城大学教育学部附属中学校授業づくり研究会美術 茨城大学・附属中・公私立学校教員による美術 教育研究推進 | H27.11.22 | 美術教育 金子 一夫 小泉 晋弥 附属中 1 名 他大学教員 1 名 公私立学校教員 3 名 院生 2 名 |
| 41 | 小泉晋弥 附属幼稚園 | 研究会 | 幼 | 講話「自然と遊ぼう！」 | H27.11.26 | 理科教育 郡司晴元(講師) 研究会参加者 約190名 附幼全教諭 |
| 42 | 増田 浩一 附属中学校 | 実態調査 | 中 | 卒論のための調査 学生の卒論に必要なデータの 収集 | H27.11~ H27.12 | 英語科教育 学生4年生 |
| 43 | 遠藤 貴則 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 特別支援教育 大学院修了研究協力 内容:知的障害児の走運動に関する研究 | H27.11~ H27.12 | 障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名 |
| 44 | 三輪 壽二 学校 教育 | 教育相談 | 中 | 不登校生徒のカウンセリング | H27.11 | 附属教育 附中教員 3 名他 |
| 45 | 小泉晋弥 附属幼稚園 | 研究会 | 幼 | 「子どもと共に遊びをつくる(3年次) ー自然との触れ合いを通してー」分科会の司会・ グループ協議のまとめ | H27.11.26 | 障害児教育 新井英靖 教育実践総合センター 五島浩一 美術教育 片口直樹 学校教育 丸山広人 教育保健 青柳直子 理科教育 大辻永 研究会参加者 約190名 附幼全教諭 |
| 46 | 鈴木 一史 国語教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 47 | 村山朝子, 木村勝彦 社会科教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 48 | 根本 博 数学教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 49 | 山本 勝博 理科教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 50 | 藤田 文子 音楽教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 51 | 金子 一夫 美術教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 52 | 日下 裕弘 保健体育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 2 名 |
| 53 | 大西 有 技術教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 54 | 野中 美津枝 家庭教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 55 | 猪井 新一 英語教育 | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 3 名 |
| 56 | 生越 達 学校教育(道徳) | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 57 | 杉本 憲子 学校教育(特別活動) | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 2 名 |

| | | | | | | |
|----|-------------------|------|--------|---|--------------------------|---|
| 58 | 青柳 路子 学校教育(総合) | 研究 | 中 | 平成 27 年度教育研究協議会 公開授業 研究会 事前指導・共同研究者 | H27.11.29 | 附中教員 1 名 |
| 59 | 小沼 信行 附属中学校 | その他 | 中 | 附属中学校の公開授業研究会にボランティア として学生に参加させることで、研究会の運営に 携わらせるだけでなく、公開授業・分科会を 参観させ、将来教員となる資質を高める。 | H27.11.29 | 教育学部学生 |
| 60 | 水野 涼子 附属中学校 | 研究 | 中 | 美術教員を目指す 1 年生の意識向上と授業研究 研究 | H27.12.1 | 美術選修 1 年生 14 名 |
| 61 | 大辻 永 理科教育 | その他 | 小 中 | 一般社団法人日本理科教育学会第 54 回関東 大会における運営及び模擬授業への協力 | H27.12.5 | 小学部教員 5 名、中学部教員 4 名 小学部 3 年生 24 名 |
| 62 | 遠藤 貴則 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 特別支援教育 大学院修了研究協力 内容: 視覚探究からみた読み聞かせ場面にお ける物語理解に関する研究 | H27.12 | 障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名 |
| 63 | 遠藤 貴則 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 特別支援教育 特別専攻科修了研究協力 内容: 知的障害児の蹴運動に関する研究 | H27.12 | 障害児教育 勝二 博亮 学生 2 名 附属特別支援学校教員 4 名 |
| 64 | 櫻井 幸子 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 特別支援教育 特別専攻科修了研究協力 内容: 知的障害児の立位姿勢に関する研究 | H27.12 | 障害児教育 勝二 博亮 学生 1 名 附属特別支援学校教員 4 名 |
| 65 | 野村 仁 附 属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校国語科教諭 国語教育 昌子佳広 鈴木一史 |
| 66 | 小島 貴志 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校社会科教諭 社会科教育 村山朝子 木村勝彦 |
| 67 | 飯村 高志 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校算数科教諭 数学教育 根本博 |
| 68 | 栗原 裕弥 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校理科科教諭 理科教育 大辻永 |
| 69 | 松本 稔子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校音楽科教諭 音楽教育 田中健次 |
| 70 | 高野 敦史 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校図画工作科教諭 美術教育 向野康江 |
| 71 | 中山 香理 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校家庭科教諭 家政教育 石島恵美子 |
| 72 | 湯瀬 英寿 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校体育科教諭 保健体育教育 渡邊将司 篠田明音 |
| 73 | 横堀 冴子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校Eタイム部員教諭 英語教育 猪井新一 |
| 74 | 海老名育子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H27.12.1～ H28.1.29 まで | 附属小学校こころの時間研究部員 学校教育 生越達 |
| 75 | 昌子 佳広 実践センター | その他 | 小 | 学校保健・危機管理の今日的課題と望ましい対応の研究 養護実地研究入門 | H27.12.18 | 附属小学校 高橋裕子 養護教諭養成課程 2 年生 |
| 76 | 橋浦 洋志 国語教育 | 授業実践 | 小 | 「ことばの力」実践演習 ことばの力について実践 を通して考察する | H28.1.20 | 学校教員養成課程 2 年生・養護教諭養成課程 2 年生 附属小学校 全児童及び全学級担任 |
| 77 | 小泉晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育て講座 「子どもの言葉をはぐむために」 | H28.2.1 | 障害児教育 細川美由紀 附幼全保護者 |

平成 28 年度 学部・附属学校の連携の届 一覧

| | 代表者 | 実施項目 | 連携先 | 目的・内容など | 期日 | 参加者 |
|----|-----------------------|--------------|----------|--|----------------------|--|
| 1 | 佐々木 忠之 情報文化 | その他 | 小 | 目的:児童が教員を身近に感じられるツールとして使用する。内容:教員の似顔絵のスタンプおよびシールを 製作し、活用する。 | H25.10～ | 情報文化 佐々木 忠之 |
| 2 | 清水 匠 附属小学校 | その他 | 小 | 自主研修会における講師指導 | H27.4～ | 附属小学校 清水 匠 音楽教育 田中 健次 |
| 3 | 齋藤 英敏 附属中学校 | 研究 実態調査 | 中 | 授業参観、授業後のインタビュー | H27.4.1～ H29.3.31 | 附中教員 1名 |
| 4 | 斉藤 ふくみ 附属中学校 | 研究 | 中 | 養護に関する共同研究 | H27.4.1～ H30.3.31 | 茨城大学四附属学校 養護教諭 4名 |
| 5 | 松坂 晃 人間環境 | 実態調査 | 特 他 | 知的障害児の運動技能を調査し体育学習指導の改善に役立てる。また、肥満ややせ過ぎの実態を把握し、栄養や運動などの生活指導の基礎資料とする。 | H27.5.1～ H30.3.31 | 人間環境教育 松坂 晃 附属特別支援学校 正保 春彦 鏑木 治 内田 清香 |
| 6 | 三輪 壽二 学校教育 | 教育相談 | 中 | 不登校生徒のカウンセリング | H27.11 | 附中教員 3名 他 |
| 7 | 清水 匠 附属小学校 | 授業実践 | 小 | 小学校におけるプログラミング教育の授業研究 | H27.12～ | 附属小学校 清水 匠 体育教育 勝本 真 他講座含め 5名 |
| 8 | 勝本 真 附 属小学校 | 授業実践 | 小 | ICT 活用に関する校内研修講師 | H27.12.22 | 附属小学校 情報文化課程 小林 祐紀 |
| 9 | 田中 健次 音楽教育 | 授業実践 | 小 | 大学院音楽科授業 院生の授業実践指導 | H28.2.8 | 附属小学校 清水 匠 音楽教育 田中 健次 |
| 10 | 清水 匠 附属小学校 | その他 | 小 | 校内音楽集会における講師指導 | H28.2.28 | 附属小学校 清水 匠 音楽教育 谷川 佳幸 |
| 11 | 大西 有 技術教育 | 授業実践 | 小 | 卒業研究にかかわる授業実践指導 | H28.3.6 | 附属小学校 清水 匠 技術教育 大西 有 |
| 12 | 大西 有 技術教育 | 研究 授業実践 | 中 | 学習指導要領に示されている内容に関わる効果的な指導方法について研究を進めている。 | H28.4.1～ H29.3.31 | 技術教育 大西 有 附属中学校 滝本 穰治 |
| 13 | 岸 良範 臨床心理 | その他 教育相談 | 中 | 大学院生の実地研修 | H28.4～ H29.3 | 大学院生 10名 (前期5 後期5) |
| 14 | 工藤 雄司 技術教育 | 授業実践 | 中 | 技術科における加工学習教材の開発 | H28.4.1～ H29.3.31 | 技術教育 工藤 雄司 附属中学校 滝本 穰治 技術職員 小祝 達朗 |
| 15 | 小松崎 美重 附属中学校 | 研究 実態調査 | 中 | 英語の授業研究 CLIL に 関する指導案作り | H28.4.1～ H29.3.31 | 齋藤 英敏 附中教員 3名 県内教員 10名 学生 7名 |
| 16 | 榊 守 技術教育 | 研究 | 特 大 学 | Windows パソコン用スイッチボックスを開発する。 | H28.4.1～ H29.3.31 | 附属特別支援学校 廣木 聡 技術教育専修1年 平山 清一 技術教育 榊 守 |
| 17 | 斉藤 ふくみ 養護教育 | その他 | 小 | 健康診断への協力 養護 実践研究 | H28.4～5 | 附属小学校 高橋 裕子 養護教諭養成課程 4年生 |
| 18 | 鈴木 一史 国語教育 | 研究 | 中 | 授業づくり研究会 共同研 究 | H28.4～ 毎月1回 | 国語科教育 附中教員 3名他 |
| 19 | 正保 春彦 附属特別支援学 校 | その他 (研修会) | 特 | 目的:授業スキルの向上 内容:講話「授業づく りについて」 | H28.4.8 | 障害児教育 新井 英靖 附属特別支援学校教員 30名 |
| 20 | 片山 美千恵 附属中学校 | その他 | 中 | 定期健康診断における補助 | H28.4.11 H28.4.12 | 養護教諭養成課程 4年次 2名 |
| 21 | 齋木 久美 情報文化 | 研究 授業 実践 | 小 | 毛筆学習入門期の効果的な学習指導法の検 討 | H28.5.11 | 附属小学校 3年1～3担 任・児童 国語選修3・4年次 15名 情報文化 齋木 久美 |
| 22 | 太田 加代 附属幼稚園 | 事例研究 | 幼 | 保育参観、保育カンファレンス等を通して幼児 理解を深める | H28.5.17～ H28.7.1 | 教育実践総合センター一五島浩一 障害児教育 新井 英靖 家政教育 石島 恵美子 教育保健 青柳 直子 附幼全教諭 |

| | | | | | | |
|----|-------------------|-------------|----|--|------------------------|---|
| 23 | 井上 寛士 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 音楽ワークショップ鑑賞、 器楽、創作 | H28.6～ H28.10 | 学生 8 名 |
| 24 | 木谷 晋平 附属中学校 | 研究 授業 実践 | 中 | 生徒の関心・意欲を高める保健授業の考案 | H28.6～ H28.11 | 大学院生 2 名 |
| 25 | 小口 祐一 算数教育 | その他 | 大学 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 算数科教育法特講 | H28.6～ | 附属小学校 佐々木康治 他 2 名 算数教育選修 2 年 |
| 26 | 田中 健次 音楽教育 | その他 | 大学 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 音楽科教育法特講 | H28.6～ | 附属小学校 松本 稔子 他 2 名 音楽教育選修 3 年 |
| 27 | 野村 仁 附属小学校 | 授業実践 | 小 | 附属小学校における校内授業研修 | H28.6.20～ H28.7.1 | 附属小学校 全職員 大学 藤井 とし子 |
| 28 | 正保 春彦 附属特別支援学校 | その他 | 特 | 大学院授業「障害児心理学演習Ⅰ」の一環として生徒への心理アセスメントの実施を通じ、 個々の認知特性について把握する。 | H28.6.28～ H29.3.31 | 障害児教育 細川 美由紀 障害児教育専修学生 6 名 特別専攻科専修免許コース学生 4 名 |
| 29 | 細川 美由紀 障害児教育 | その他 | 特 | 大学院授業「障害児心理学演習Ⅰ」の一環として生徒への心理アセスメントの実施を通じ、 個々の認知特性について把握する。 | H28.6.28～ H29.3.31 | 障害児教育 細川 美由紀 教育学研究科障害児教育専修 1 次 遠藤 貴則・久保 愛恵・小里 直道・小林 亜由美・関口 貴之・松 井 清伊・特別支援教育特別専攻 科専修免許コース 小田 哲平・豊田 崇仁・高橋 結・ 宮崎 諒一 |
| 30 | 木村 勝彦 社会科教育 | その他 | 大学 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 社会科教育法特講 | H28.7～ | 附属小学校 小島 貴志 他 2 名 社会科教育選修 2 年 |
| 31 | 小泉 晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育てに役立つ学びの場を保護者に提供 「ハートと読書と数学」 | H28.7.1 | 数学教育 松村 初 附幼保護者 100 名 |
| 32 | 井上 寛士 附属中学校 | その他 | 中 | 宿泊共同学習への引率補助 | H28.7.12～ H28.7.21 | 学生 4 名 |
| 33 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 特 | 書字の際の時間や速度、筆圧、字形等を簡便 に記録できるデジタルペンを用いて書字の様 子を測定し、知的障害がある児童が書字習得 をするためのより良い方法を検討する。 | H28.7.19～ H28.7.20 | 障害児教育 勝二 博亮 教育学部学校教育教員養成課程 特別支援教育コース加納 茜音 |
| 34 | 猪井 新一 英語教育 | 授業実践 | 中 | 国費留学生に英語の授業実践 TeamTeaching の指導法について検討 | H28.7.21～ H28.7.26 | 大学院生 4 名 附中教員 3 名 |
| 35 | 細川 美由紀 障害児教育 | 研究 | 幼 | 幼児期における他者意図理解の発達について 検討する | H28.8.9～ H29.3.31 | 障害児教育 細川 美由紀 教育学部学校教育教員養成課程 特別支援教育コース 加藤 貴子 |
| 36 | 井上 寛士 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 一斉研究授業の協議 | H28.9.21～ H28.10.28 | 2 年次 5 名 3 年次 3 名 |
| 37 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 幼 | 実際場面で紙芝居の読み聞かせを行う際の幼 児の視線パターンについて、発達段階ごとの 特徴について検討する。 | H28.9.21～ H28.11.24 | 障害児教育 勝二 博亮 教育学研 究科 障害児教育専修 障害児教育 専攻 2 年次 小野寺藍 |
| 38 | 菊池 康浩 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 公開研究会に向けての授業づくりの在り方 | H28.9.30 | 梅津 健一郎 附中教員 2 名 |
| 39 | 正保 春彦 附属特別支援学校 | 研究 | 特 | 障害児における「わからない」反応に関する研 究 | H29.9.30～ H28.10.13 | 障害児教育 東條 吉邦 障害児教育学生 1 名 |
| 40 | 杉本 憲子 学校教育 | その他 | 小 | 教育技術向上を図るための現職教員による指導 生活科教育法研究 | H28.10～ | 附属小学校 湯瀬 英寿 他 2 名 教育 学部授業「生活科教育法研究」受講 者 |
| 41 | 小泉 晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育てに役立つ学びの場を保護者に提供 「みんなで教えよう！ メディアとのつきあい方」 | H28.10.3 | 情報文化 小林 祐紀 附幼保護者 100 名 |

| | | | | | | |
|----|-------------------------------------|------|---|--|-------------------------|---|
| 42 | 鳩山 裕子 附属 特別支援学校 片口 直樹 美術教育 | 授業実践 | 特 | アクティブ・ラーニングの考え方を踏まえ、図工・美術の教育研究を強化し、児童生徒の表現力が充実する実践研究を行う。また、実践に学生を関与させることで、学校と大学の相互での教育的効果を見出す。 | H28.10.4～ H28.11.29 | 附属特別支援学校 鳩山 裕子(代表)、江間 留美子 鈴木 康弘、廣木 聡、 美術教育 片口 直樹、島 剛 |
| 43 | 齊藤 ふくみ 養護教育 | その他 | 小 | 学校行事における実地研究 キッズワールド補助 | H28.10.9 | 附属小学校 高橋 裕子 養護教諭養成課程 4 年生 |
| 44 | 生越 達 道徳教育 | 研究 | 小 | 「考え、議論する道徳」研究 (道徳研究会講師) | H28.10.18 | 附属小学校 全職員 |
| 45 | 勝二 博亮 障害児教育 | 研究 | 幼 | 微細運動および粗大運動の発達状況を明らかにするための質問紙調査の作成とその妥当性を検証する。 | H28.10.24～ H28.12.20 | 障害児教育 勝二 博亮 教育学部 特別支援教育コース 4 年次 古屋 友希 |
| 46 | 小林 伸彦 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 総合的学習の時間の授業実践 英語を用いた対話 | H28.11.1～ H28.11.9 | 英語科教育専攻 マダガスカル留学生 2 名 |
| 47 | 小林 伸彦 附属中学校 | 実態調査 | 中 | 修士論文作成のための調査 院生の修士論文に必要なデータの収集 | H28.11.1～ H28.11.10 | 社会科教育専攻 中国人留学生 1 名 |
| 48 | 増田 浩一 附属中学校 | 実態調査 | 中 | 卒論のための調査 学生の卒論に必要なデータの収集 | H28.11～12 | 英語科教育 学生 4 年生 |
| 49 | 青柳 直子 教育保健 | 研究 | 幼 | 園児と保護者を対象として、生活習慣、心身の健康度、身体活動について調査を行い、その実態に基づき、生活習慣の改善のための介入の手がかりを得ることを目的とする。 | H28.11～ H29.3.31 | 家政教室 石島 恵美子 附属幼稚園 養護教諭 海老澤紫 |
| 50 | 井上 寛士 附属中学校 | その他 | 中 | 合唱コンクールへの審査、演奏 | H28.11.11 | 特任教授 脇岡 宗一 |
| 51 | 菊池 康浩 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 公開研究会に向けての授業づくりの在り方 | H28.11.17 | 梅津 健一郎 附中教員 2 名 |
| 52 | 井上 寛士 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 教育法研究の授業 | H28.11.21～ H29.1.16 | 田中 健次 学生 16 名 |
| 53 | 日下 裕弘 保健体育 | 研究 | 中 | これまで附属中で 3 年間行われてきた公開研究授業の論文化 | H28.11.21～ H30.3.31 | 附属中学校 保健体育 木谷 晋平 |
| 54 | 梅津 健一郎 数学教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 3 名 |
| 55 | 大西 有 技術教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 56 | 生越 達 学校教育(道徳) | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 57 | 金子 一夫 向野 康江 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 58 | 日下 裕弘 保健体育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 2 名 |
| 59 | 齋藤 英敏 英語教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 3 名 |
| 60 | 杉本 憲子 学校教育(特別活動) | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 2 名 |
| 61 | 鈴木 一史 国語教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 3 名 |
| 62 | 田中 健次 音楽教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 63 | 野中 美津枝 家政教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 64 | 藤井 とし子 学校教育(総合) | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 1 名 |
| 65 | 村山 朝子 木村 勝彦 社会科教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 3 名 |
| 66 | 山本 勝博 理科教育 | 研究 | 中 | 平成 28 年度教育研究協議会 公開授業研究会 事前指導・共同研究者 | H28.11.26 | 附中教員 3 名 |
| 67 | 小沼 信行 附属中学校 | その他 | 中 | 平成 28 年公開授業研究会 研究会の運営、公開授業、分科会参観 | H28.11.26 | 教育学部学生 |

| | | | | | | |
|----|-----------------|------|----|--|-----------------------|--|
| 68 | 小泉 晋弥 附属幼稚園 | 研究 | 幼 | 研究主題に沿った保育公開と、分科会における進行とまとめ | H28.11.30 | 教育実践総合センター五島浩一 障害児教育 新井 英靖 家政教育 石島 恵美子 教育保健 青柳 直子 教育関係者 200 名 附幼教諭 10 名 |
| 69 | 小口 祐一 算数教育 | 研究 | 大学 | 全国算数・数学教育研究大会に向けて (助言者) | H28.12~ | 附属小学校 佐々木 康治 他 2 名 |
| 70 | 内田 清香 養護教育 | 研究 | 小 | 養護教諭がコーディネーターの役割を果たす ために必要な要素の構造化 | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校 高橋 裕子 養護教育 齊藤 ふくみ |
| 71 | 海老名 育子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校ころの時間研究部員 学校教育 生越 達 |
| 72 | 小島 貴志 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校社会科教諭 社会科教育 村山 朝子 木村 勝彦 |
| 73 | 佐々木 康治 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校算数科教諭 数学教育 小口 祐一 |
| 74 | 澤島 仁子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校 E タイム部員教諭 英語教育 齋藤 英敏 |
| 75 | 須貝 和弘 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校理科教諭 理科教育 郡司 晴元 |
| 76 | 高野 敦史 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校図画工作科教諭 美術教育 向野 康江 |
| 77 | 中山 香理 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校家庭科教諭 家政教育 石島 恵美子 |
| 78 | 比佐 中 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校国語科教諭 国語教育 昌子佳広 鈴木一史 |
| 79 | 松本 稔子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校音楽科教諭 音楽教育 田中 健次 |
| 80 | 松本 稔子 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校ひびき・ゆめの時間研 究部員 学校教育 杉本 恵子 |
| 81 | 湯瀬 英寿 附属小学校 | 研究 | 小 | 児童が主体的に取り組む学習づくり研究 (公開授業研究会講師) | H28.12~ H29.1.28 | 附属小学校体育科教諭 保健体育教育 渡邊 将司 |
| 82 | 齊藤 ふくみ 養護教育 | その他 | 小 | 保健室参観及び講義 養護 実地研究入門 | H28.12~ H29.2 | 附属小学校 高橋 裕子 養護教諭養成課程 2 年生 |
| 83 | 船山 知暁 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 大学院生の修士論文に係る授業実践 | H28.12.5 | 山本 勝博 大学院生 1 名 |
| 84 | 小松崎 美重 附属中学校 | 実態調査 | 中 | ICT の活用に関する卒論のための調査 | H28.12.14 | 学生 1 名 |
| 85 | 田中正彦 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 大学 1 年生を対象に授業公開と研究協議 | H29.1 | 学生 31 名 |
| 86 | 田中正彦 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 大学 2 年生を対象に授業公開と研究協議 | H29.1 | 学生 34 名 |
| 87 | 猪井 新一 英語教育 | 授業実践 | 中 | 国費留学生に英語の授業実践(1~3 年) | H29.1~2 | 大学院生 1 名 附中教員 3 名 |
| 88 | 野中 美津枝 家政教育 | 授業実践 | 中 | 家庭科教育特論Ⅱにおける授業分析の演習 | H29.1.16~ H29.2.3 | 大学院 1 年 松井清伊・飯野朋恵 小 林祥子・元吉杏那 |
| 89 | 橋浦 洋志 国語教育 | 授業実践 | 小 | 「ことばの力」実践演習 ことばの力について実 践を通して考察する | H29.1.18 | 学校教員養成課程 2 年生 養護教諭養成課程 2 年生 附属小学校 全児童及び全学級担 任 |
| 90 | 野中 美津枝 附属中学校 | 授業実践 | 中 | 授業力向上及び教材の開発 作成した指導案を 用いての授業実践 | H29.1.20~ H29.1.23 | 附中教員 1 名 大学院生 4 名 |
| 91 | 浅野 梨江 図工教育 | 授業実践 | 小 | 図画工作科の授業参観・研修 | H29.1.25 | 附属小学校 浅野 梨江 図画工作科教育 向野 康江 |
| 92 | 小泉 晋弥 附属幼稚園 | 講座 | 幼 | 子育てに役立つ学びの場を保護者に提供 「5 歳までのお料理で五感を鍛えよう！」 | H29.1.30 | 家政教育 石島 恵美子 附幼保護者 60 名 |
| 93 | 向野 康江 附属中学校 | 研究 | 中 | 美術教員を目指す学生と授業研究 | H29.2 | 美術選修学生 |
| 94 | 小島 貴志 社会科教育 | 研究 | 小 | 授業記録をもとにした話し合い活動への助言 | H29.2.1 | 附属小学校 小島 貴志 |

| | | | | | | |
|-----|----------------|-------------|--------|---|----------------------|--|
| 95 | 佐々木 忠之 情報文化 | その他 | 小 | 教員の似顔絵のスタンプ・シール作成 児童が 教員を身近に感じられるツールとして 使用する | H29.2.1 | 附属小学校 菅原 郁子 |
| 96 | 湯瀬 英寿 体育科教育 | 研究 | 小 | 体育科内容研究 | H29.2.1～ | 附属小学校 湯瀬 英寿 体育科教育 吉野 聡 |
| 97 | 中山 香理 家庭科教育 | その他 | 小 | 初等家庭科教育演習 アンケートによる実態調 査 | H29.2.1～ H29.2.15 | 附属小学校 中山 香理 家庭科教育 石島 恵美子 |
| 98 | 齋木 久美 情報文化 | 研究 実態 調査 | 小 中 | 書字速度に関する実態調査 | H29.2.1～ H29.2.28 | 附属小学校 勝本 真 附属中学校 木村 美智子 |
| 99 | 日下 裕弘 保健体育 | 研究 授業 実践 | 中 | 附中における公開研究授業の論文化 ～体育授業における学び合いと アクティブラーニング～ | H29.4.1～ H30.3.31 | 附属中学校 保健体育 木谷 晋平 |
| 100 | 須貝 和弘 理科教育 | 授業実践 | 小 | 卒業研究への助言・指導 ICT 活用授業の有効性を分析・検証する | H29.11.28～ | 附属小学校 須貝 和弘 理科教育 山本 勝博 教育実践総合センター 五島浩一 |

3 講習会・研修会

3-1 茨城大学教員養成 F D 「今後の教員養成の動向について」

平成 29 年 1 月 18 日に、全学教職センターと教育学部との共催の形で、茨城大学教員養成 F D 「今後の教員養成の動向について」が行われた。司会は、小川哲哉全学教職センター長が行った。

開催に際して、三村信男学長は、本学の教員養成教育の取り組みに対して触れ、平成 28 年 4 月には教員養成への地域のニーズに応えるため教職大学院と全学教職センターの設置を行い、教員養成に対する地域のニーズに応えるために教職大学院と全学教職センターの創設し、教育学部の改革も同時進行させたことについて述べた。そして本学の改革と同じ時期に教職員免許法の改正が行われたことは重要な意味があり、そのような大切な時期に本 F D が、「教員養成のあり方と全国的な課題を考えるタイムリーな企画となった」と述べ、今回の F D の重要性を強調した。

本 F D の講師としては、文部科学省初等中等教育局教職員課長の佐藤 光次郎氏を招聘し、最新の文教政策や免許法の改正と新しい教員養成政策の内実についてお話しいただいた。今回この講演の様子は、VCS で工学部や農学部にも映像を送信したので、全学部の教職員向けの F D になったと同時に、茨城県教育庁関係者も参加して頂いたことで大学と教育委員会との連携の重要性が確認できた。総勢は 300 名を上回る規模の講演会となった。

佐藤氏によれば、平成 27 年に提案された 3 つの中央教育審議会答申の影響力は大きく、この 3 答申がこれからの教員養成教育の大きな変革になることが確認できるという。そうした答申の中でも、「チーム学校」等の施策は重要であり、これによって現状の教員の仕事に対する負担感を払拭し、子どもたちのための教育活動の展開が期待できるという。また、今後重要になってくるのは、知識伝達型の教育活動ではなく、知識や情報を活用する学習活動、すなわちアクティブ・ラーニング等の普及が重要であるし、しかしそれと同時に基礎学力の低下を防ぐための授業改善やカリキュラム・マネジメントへの取り組みが是非とも必要であり、そうした方策は次期学習指導要領の大きなテーマであるという。さらに養成・採用・研修の一体化を図るために各教育委員会と大学との連携は極めて重要であり、そのために両者間で協議会を設置して養成側と採用側のより緊密な連携を図ることが喫緊の課題であると述べた。また、講演の終盤には、教育職員免許法改正に伴う再課程認定の具体的なスケジュールや、政策方針についての具体的な説明もあり、講演会に参加した複数の教員から今後の手続きなどに関する質問が出された。

いずれにしても、今回の F D で明らかになったことは、従来のように養成側である大学と、採用側である教育委員会との連携や一体化が十分になされない状況が続くならば、現在のような学校教育現場の厳しい状況の改善は困難であり、そのためには両者の一層の連携が必要であり、相互協力が是非とも必要である。

今後、教員養成側の大学と、採用及びその研修を行う側の教育委員会との密接な関係性の構築は重要な課題であることが明らかになった。

4 教育学部としての取組

4-1 茨城県教育委員会との連携活動

茨城県教育委員会との連携活動として教育学部教員は、毎年「茨城県教育研修センター」（笠間市）での各種研修事業に参画し、協力関係を続けています。これは平成 18 年 3 月に研修センター所長と教育学部長との間にかわされた「連携協力による覚書」に基づくものであり、教育研修センターで毎年おこなわれる「10 年経験者研修」をはじめとする様々な研修講座には、教育学部教員が講師として派遣されております。その際に附属教育実践総合センターは、大学側の連絡・調整の役割を担っております。平成 28 年の講師名と講座名は以下の通りです。

| | | | |
|----------------------------|-------------------|---------------|--------|
| 新規採用養護教諭研修講座 | 平成 28 年 8 月 17 日 | 10:00 ~ 11:30 | 青柳 直子 |
| 6 年次研修講座（中学校, 国語） | 平成 28 年 6 月 29 日 | 10:30 ~ 12:00 | 鈴木 一史 |
| 6 年次研修講座（高等学校, 保健体育） | 平成 28 年 6 月 29 日 | 11:00 ~ 12:30 | 吉野 聡 |
| 6 年次研修講座（特別支援学校） | 平成 28 年 11 月 15 日 | 10:00 ~ 12:00 | 新井 英靖 |
| 10 年経験者研修講座（特） | 平成 28 年 6 月 22 日 | 10:00 ~ 12:00 | 勝二 博亮 |
| 10 年経験者研修講座（特） | 平成 28 年 11 月 18 日 | 10:00 ~ 12:00 | 細川 美由紀 |
| 10 年経験者研修講座（養護教諭） | 平成 28 年 6 月 8 日 | 14:30 ~ 16:00 | 瀧澤 俊行 |
| 10 年経験者研修講座（養護教諭） | 平成 28 年 7 月 8 日 | 11:00 ~ 12:30 | 廣原 紀恵 |
| 10 年経験者研修講座（養護教諭） | 平成 28 年 10 月 27 日 | 9:30 ~ 12:00 | 青柳 直子 |
| 新任校長研修講座（小学校） | 平成 28 年 5 月 26 日 | 8:45 ~ 10:00 | 菊池 龍三郎 |
| 新任校長研修講座（中, 高・特） | 平成 28 年 6 月 8 日 | 8:45 ~ 10:00 | 菊池 龍三郎 |
| 学校組織マネジメント研修講座 A | 平成 28 年 11 月 1 日 | 9:40 ~ 15:55 | 加藤 崇英 |
| 学校組織マネジメント研修講座 B | 平成 28 年 11 月 8 日 | 9:40 ~ 15:55 | 加藤 崇英 |
| 教職に関する研究 | 平成 28 年 4 月 25 日 | 10:00 ~ 11:30 | 加藤 崇英 |
| 10 年経験者研修講座（小・中・高選択, 教育相談） | 平成 28 年 8 月 23 日 | 9:30 ~ 11:30 | 正保 春彦 |
| 教育相談（初級）研修講座 | 平成 28 年 7 月 5 日 | 9:30 ~ 11:30 | 正保 春彦 |

4-2 茨城県教育研究連盟との連携活動

茨城県は茨城大学、茨城県教育会、茨城県教育研究会、茨城県教職員組合など教育関係諸団体によって「茨城県教育研究連盟」を組織しています。連盟の任務は、研究集会の開催、教育情報の収集と集積です。当センターではこれらの関連資料を誰もが閲覧できるようにしています。また例年行われる研究集会の分科会に助言者として、教育学部の教員が参加しています。

本連盟の今年の研究集会（第 61 回）は平成 28 年 10 月 8 日に茨城大学水戸キャンパス、茨城教育会館、教育プラザいばらきの三会場において開催されました。

今年の研究集会には 523 名の参加者がありました。今年度は茨城大学水戸キャンパスの都合により、三会場での開催となりました。そのため例年行われていた全体会は実施せず。各会場での研究発表中心に進められました。各会場での分科会では総計で 240 名が実践レポートを報告し、それにもとづいて熱心な討議が行われました。それぞれの分科会に助言者として参加した教育学部教員は以下の通りです。

| | |
|--------------|-----------|
| 国語教育 | 鈴木一史 |
| 外国語教育 | 猪井新一 |
| 数学教育 | 松村初 |
| 社会科教育 | 村山朝子 |
| 理科教育 | 山本勝博 上栗伸一 |
| 生活科・総合・環境教育 | 杉本憲子 |
| 技術教育 | 大西有 |
| 家庭科教育 | 野中美津枝 |
| 音楽教育 | 田中健次 |
| 美術教育 | 向野康江 |
| 保健教育 | 瀧澤利行 |
| 体育・保健体育教育 | 日下裕弘 |
| 特別活動 | 打越正貴 |
| 道徳教育 | 青柳路子 |
| 生活指導・幼保小連携 | 坂場克身 |
| 進路指導 | 望月厚志 |
| 情報化と教育 | 本田敏明 |
| 特別支援教育 | 細川美由紀 |
| 教育条件整備と教育の問題 | 藤田達人 |
| 個性の尊重とその評価 | 三輪壽二 |
| 人権保障と共生の教育 | 丸山広人 |

本年度からは茨城県教育研究連盟の事務局長を全学教職センター長が兼務しています。

4-3 平成 28 年度開講の茨城大学教育学部公開講座

| 講座名 | 講師 | 開催日 | 募集・受講人数 |
|-------------------------------|-------------------|-------------------------|------------------------|
| プロジェクト WET エデュケーター講習会 in 茨城大学 | 郡司 晴元 | 6/18(土) | 募集人員 10 人 受講人数 5 人 |
| 新しいインターネットの利用法(前期) | 本田敏明 | 8/3(水)、8/4(木) 8/5(金) | 募集人数 15 人 受講人数 11 人 |
| 新しいインターネットの利用法(後期) | 本田敏明 | 11/5(土)、11/6(日) | 募集人数 15 人 受講人数 5 人 |
| 心を育てるグループワーク | 正保春彦 | 7/30(土)、7/31(日) | 募集人数 25 人 受講人数 18 人 |
| 教育と臨床に生かすインプロヴィゼーション | 正保春彦 他学外講師 1 名 | 10/1(土)、10/2(日) | 募集人数 25 人 受講人数 14 人 |

4-4 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

連携先

茨城県教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

活動メンバー

大学院学校臨床心理専修 6 名

学部生 11 名

養護教諭養成課程 4 名・国語選修 1 名・美術選修 3 名・技術選修 1 名・特別支援教育コース 1 名・人間環境教育課程心理コース 1 名

指導教員 3 名

守屋英子・金丸隆太（学校臨床心理専攻）・三輪壽二（学校教育）

活動の内容・目的

平成 17 年度に開校した単位制・三部制のフレックススクール茨城県立鹿島灘高等学校、および平成 20 年度に同じくフレックススクールとして開校した茨城県立結城第二高等学校へ、生徒達の心のケアの一端を担うこと（気軽な話し相手となり、生徒達のストレスを軽減する）を目的とするキャンパスエイドとして学部生・大学院生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の 4 点である。

- (1) 生徒に対する話し相手としての役割で行う支援活動。
- (2) 「心理学」（必修授業）授業時に補助として参加するなど学校カウンセリングに関わる活動。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会等への参加。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を、毎回校長に提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前期 5 名、後期 4 名が、結城第二高校では前期 5 名、後期 4 名がキャンパスエイドとして活動した。今年度も学部生のキャンパスエイドが活動できる曜日に偏りがあり、鹿島灘高校では前期の月曜日に 2 人で交代しながら活動をする一方で、エイドが活動できない曜日ができ、鹿島灘高校では前期・後期とも 1 日ずつ、結城第二高校では後期に 1 日エイドがいない曜日ができた。

毎月最終週にミーティングを持ち、1 ヶ月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し、活動上疑問や困難を感じることにについて全体で話し合った後、高校ごとに分かれてエイドの居る部屋に来室する生徒についての情報を共有し、生徒理解と対応を考える時間を持った。

また、キャンパスエイドがふだん活動する高校以外のフレックス高校を訪問し、エイド活動をする機会を持つことができた（鹿島灘→結城二高 5 名、結城第二高校→鹿島灘高校 6 名）。

活動の成果・意義

フレックススクールに入学してくる生徒は、中学時代にいじめや不登校を経験したり、何らかの発達障害（またはその傾向）を持っていることも多く、そのために対人関係上の困難を抱えていることが多い。同年代の生徒とはうまく関われないが、先生ではない、少し年上で年齢に近いキャンパスエイドと話がしたくて来室する生徒、教室に居場所がなくてお昼休みや空き時間に居場所を求めて来室する生徒など、高校内にキャンパスエイドがいることで、生徒達に居場所とコミュニケーションの機会を与えることができたと考える。

キャンパスエイド達は高校での活動と毎月のミーティングを通して、エイド室を訪れる生徒達に対する理解や、対応の仕方などを学び、対人援助についての理解を深めることができたと考える。また他校を訪問したことにより、学校の特色によってそれぞれ違いがあり、その違いに合わせた様々な工夫があることも学ぶことができた。

4-5 第 8 回茨城地域教育臨床研究会

大学生・大学院生による中学・高校でのメンタル・サポート － 学校風土に合わせたキャンパスエイド活動 －

【日時】平成 29 年 3 月 16 日（土）13 時～17 時

【場所】茨城大学教育学部 B 棟 B312 教室

【プログラム】

1. 開会挨拶

| | |
|---------------------|--------|
| 茨城県高校教育課 高校教育改革推進室長 | 秋本光徳先生 |
| 茨城大学教育学部地域連携委員会 委員長 | 小川哲哉先生 |
| 茨城地域教育臨床研究会 代表 | 守屋英子 |
2. 学校風土とキャンパスエイドに期待するもの
 - (1) 茨城県立鹿島灘高校より
 - (2) 茨城県立結城第二高校より
 - (3) 茨城県立荃崎高校より
 - (4) 茨城県立水戸南高校より
 - (5) 茨城大学教育学部附属中学校より
3. 学校風土に合わせたキャンパスエイド活動（キャンパスエイドによる発表）
 - (1) 茨城県立鹿島灘高校におけるキャンパスエイド活動（茨城大学学部生・院生）
 - (2) 茨城県立結城第二高校におけるキャンパスエイド活動（茨城大学学部生・院生）
 - (3) 茨城県立荃崎高校におけるキャンパスエイド活動（筑波大学院生）
 - (4) 茨城県立水戸南高校におけるキャンパスエイド活動（常磐大学学部生・院生）
 - (5) 茨城大学教育学部附属中学校におけるキャンパスエイド活動（茨城大学院生）
4. グループディスカッション
5. シェアリング



↑ 鹿島灘高校フリースペース入り



↑ 結城二高キャンパスエイド室入り

4-6 教育学研究科 臨床心理相談室活動報告

1. 平成 27 年度・平成 28 年度（2 月末現在）の相談活動

平成 27 年度および平成 28 年度の相談状況は以下の表 1～表 3 のとおりであった。但し平成 28 年度の数値はすべて平成 28 年 2 月末日のものである。

表1 平成 26・27 年度相談件数

| 年度 | 新規件数 | 継続件数 | 総件数 | 延べ来談件数 | 延べ面接人数 |
|-----|------|------|-----|--------|--------|
| H27 | 79 | 137 | 212 | 1,391 | 1,964 |
| H28 | 69 | 132 | 190 | 1,239 | 1,771 |

表2 平成 26・27 年度新規相談内訳

| 年度 | 心理面接 | 親子面接 | コンサルテーション | その他 | 合計 |
|-----|------|------|-----------|-----|----|
| H27 | 17 | 54 | 8 | — | 79 |
| H28 | 14 | 38 | 7 | 10 | 69 |

表3 平成 26・27 年度新規相談年齢別構成

| 年度 | 幼児 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 専門・大学生 | 成人 | コンサルテーション | 合計 |
|-----|----|-----|-----|-----|--------|----|-----------|----|
| H27 | 9 | 14 | 16 | 10 | 4 | 18 | 8 | 79 |
| H28 | 5 | 18 | 11 | 8 | 2 | 18 | 7 | 69 |

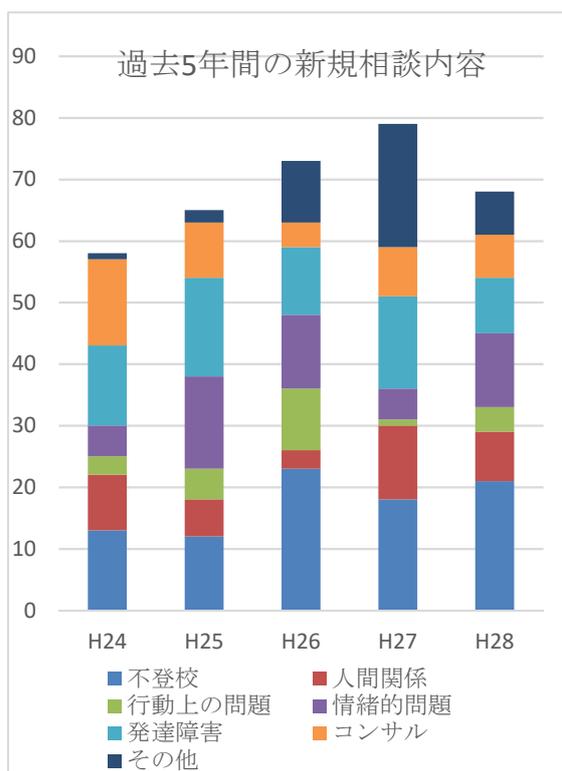
2. 過去 5 年間の相談実績の推移

過去 5 年間の相談実績は表 4 のとおりである。また、過去 5 年間の新規相談内容の推移は下図および表 5 のとおりである。但し平成 28 年度は平成 29 年 2 月末日までの数値である。

| 年度 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 新規相談件数 | 58 | 65 | 73 | 79 | 69 |
| 継続相談件数 | 69 | 98 | 123 | 137 | 132 |
| 総相談件数 | 127 | 163 | 196 | 212 | 190 |
| 延べ来談件数 | 1,121 | 1,357 | 1,536 | 1,391 | 1,239 |
| 延べ面接回数 | 1,714 | 2,105 | 2,344 | 1,964 | 1,771 |

表5 過去 5 年間の新規相談内容

| 年度 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 不登校 | 13 | 12 | 23 | 18 | 22 |
| 人間関係 | 9 | 6 | 3 | 12 | 8 |
| 行動上の問題 | 3 | 5 | 10 | 1 | 4 |
| 情緒的問題 | 5 | 15 | 12 | 5 | 12 |
| 発達障害 | 13 | 16 | 11 | 15 | 9 |
| コンサルテーション | 14 | 9 | 4 | 8 | 7 |
| その他 | 1 | 2 | 10 | 20 | 7 |
| 合計 | 58 | 65 | 73 | 79 | 69 |



茨城大学教育実践研究 第 35 号 原稿執筆者

- 教育制度改革と地方教育行政 — 教育制度改革と高等学校教員養成についての一考察 — ……柴原宏一
- 校内研修を活性化するための一方策 — 研究主任研修会の実践を通して — ……五島浩一・臼井英成
- 学校教員養成系大学における図画工作科・美術科に関する指導力点検方法の一例……………向野康江
- 大正期の子どもの絵に関する研究(1)
- 『啓助日記』における挿絵を対象にして— ……山田秀平・向野康江
- 大正期の子どもの絵に関する研究(2)
- 『啓助日記』における挿絵を対象にして— ……山田秀平・向野康江
- 日本の盲学校における戦後の図工科教育の指針
- 青鳥会による『盲学校教育課程(小学部篇)』の分析 — ……庄司愛望・向野康江
- 岡本太郎(1911～1996)の児童画に対する要求水準について
- 『児童画評価シリーズ 2』を手掛かりに— ……金山愛奈・向野康江
- 教員養成大学における中等教育の音楽科教育・歌唱指導に関する研究
- 「曲種に応じた発声」を中心に、視聴覚教材を手がかりとして— ……山口(藤田)文子
- 技術科におけるプログラミング学習教材の開発
- 小学校における情報教育を視野に入れて — ……工藤雄司・畠山徳之・山口祐樹
- 発達障害者支援のための iOS 端末外付けスイッチデバイスの開発
- ……………平沼清一・櫻井幸子・廣木 聡・宮山敬子・丹下 裕・中川重康・榊 守
- 中学校家庭科における「日常着の手入れ」に関する課題について……………小林祥子・木村美智子
- 家庭科における小中連携のための実態調査
- 小学生中学生の衣生活・住生活と家庭科の指導の状況 — ……野中美津枝・増子律子
- 小学校家庭科における環境と食文化の教材研究 — 箸に関する授業の成果と課題 —
- ……………飯野朋恵・石島恵美子
- 小学校家庭科の手縫い学習における生活実践状況と課題……………飯田容子・石島恵美子
- 英語選修の学生は教育実習で何を学んでいるのか
- 教育実習履修簿の記述から見えてくるもの — ……猪井 新一
- 読み困難を示す ADHD 児への文章作成による言語表現の支援……………平山太市・勝二博亮
- 英国におけるインクルーシブ学校の学校方針に関する検討
- キングスリー初等学校の事例から — ……新井英靖
- 特別支援学校におけるグループワークを用いた人間関係づくりに関する研究
- ……………細川美由紀・下位翔大・正保春彦
- スクールソーシャルワークにおける養護教諭の役割……………大塚真子・青柳直子
- 体験活動を取り入れた保健教育の指導方法に関する研究……………市川美代子・青柳直子

中・高校生の理解促進を指向した再生医療通信『懸け橋』の発行

・石原研治・佐藤公美・野口 遥・山口千恵子・大沼守正・佐藤 隆・和田濱裕之・川上雅弘・瀧澤利行

高大接続研究による「再生医療教育モデル講座」の開発

.....石原研治・山口千恵子・大沼守正・中森未華・瀧澤利行

幼児向け番組におけるテレビを 3 次元に見る手がかりの分析.....村野井 均・藤井とし子

小学校の道徳教育に関する研究 — モラルスキルトレーニングの実践例 —小川哲哉・石島愛

討議型道徳授業に関する研究 — 郷土愛を学ぶ高校道徳授業 —小川哲哉・渡邊英一・岩瀬美江

アクティブ・ラーニングと道徳教育 — 道徳教育と国語教育の連関性 —石井純一・小川哲哉

現代社会と生徒指導における児童生徒理解

— 学級経営と教師の存在を生徒指導提要から考える —生越 達

アクティブ・ラーニングの手法を用いた国語科の授業.....大谷智恵美・生越 達

「特別の教科道徳」の政策的動向と課題.....佐藤 環

茨城県小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント.....佐藤 環・打越正貴

教師の ICT 活用指導能力の育成について.....本田敏明・西村佳菜・樋野雄介・大曾根伊織

デザインマネジメントによるアクティブ・ラーニングの実践的研究

— 事例(1)キッチン空間アイデアコンテスト —齋藤芳徳

芝居の画像分析に関する研究 — ショット分析の応用の試み —林延哉

特別活動における人間関係構築のための教師の取り組み(1)

— ミドルリーダー教師の学年初期の事例 —小林祐紀・山口眞希

東日本大震災後の福島県内被災地児童生徒の状況

— 身体活動に関わる状況を中心に —籠谷 尚・五十嵐千尋・高橋真理・松坂 晃

特別支援学校保健体育学習指導案公開の難しさについて.....國松保乃加・松坂 晃・鏑木 治

家庭裁判所親子合宿におけるグループワークとその意義.....正保春彦

心を育てるグループワーク.....正保春彦